

平成22年度総合計画住民アンケート 調査結果 (一般住民 5,000人分)

1. 調査の目的

住民の方々の公共サービスの満足度やまちづくりについての考えを把握し、計画策定にあたっての参考とすることを目的とします。

なお、本調査は、18歳以上の一般住民と中学生に分けて実施しました。

2. 調査項目

別添「調査票」のとおり。

3. 調査方法

	一般住民	中学生
(1) 調査期間	平成22年5月31日(月)～6月11日(金)	
(2) 調査地域	新城市内全域	
(3) 調査対象	市内に在住する満18歳以上の住民	市内の中学校に通学する中学3年生
(4) 抽出法	無作為抽出(注)	対象全員
(5) 調査方法	郵送による配布、回収	校内配布、回収

(注)住民基本台帳より、地区(旧市町村)別、年齢階層別、男女別の抽出率を設定

4. 回収結果

	一般住民	中学生
配布数	5,000	518(506)
有効回収数	2,117(2,716)	485(491)
有効回収率	42.3%(54.3%)	93.6%(97.0%)

※()数字は前回調査のもの

5. 注意事項

本調査の図表で示した構成比の数字については、小数点以下の四捨五入の関係で、合計が100%にならず、0.1ポイントずれるケースがある。また、文章中の数字についても、同様の理由により、図表の数字と0.1ポイント以内の差が生じることがあります。

第1章 回答者の属性

問1 性別（あなたの性別は。）

回答者の性別は、男性が42.5%、女性が57.2%、無回答が0.3%となっている。住民基本台帳では、平成22年6月1日現在、男性が49.3%、女性が50.7%なので、今回の調査結果は市の状況に比べて男性の回答がやや少ない結果となっている。

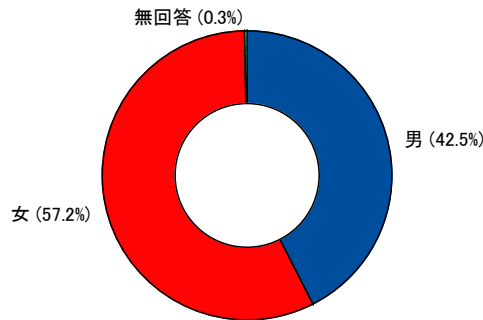


図1 性別

問2 年齢（あなたの年齢は。）

「60～69歳」が21.7%で最も高く、次いで「40～49歳」が19.1%となっている。地区別に見ると、作手地区で年齢の高い世代の割合がやや高くなっている。

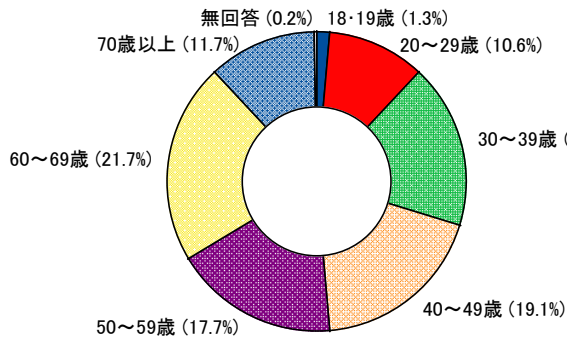


図2 年齢構成

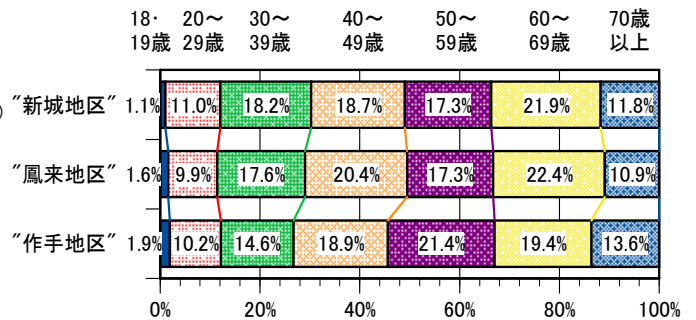


図3 年齢構成（地区別）

問3 家族構成（あなたの家族構成は。）

「二世世代世帯」で暮らす者が45.0%で最も高く、次いで「三世世代世帯」が26.3%となっている。地区別に見ても二世世代世帯が最も高い状況はどの地区も同じだが、鳳来地区と作手地区は新城地区に比べて三世世代世帯の割合が高くなっている。

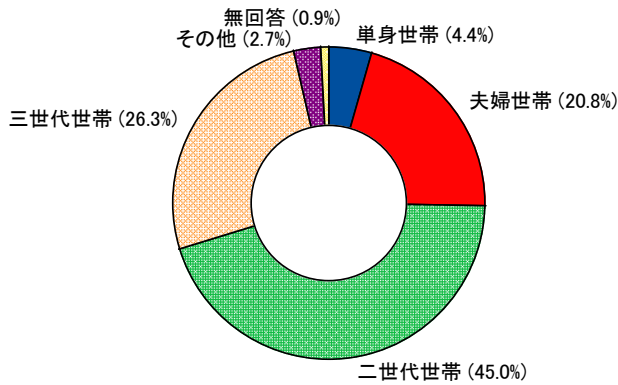


図4 家族構成

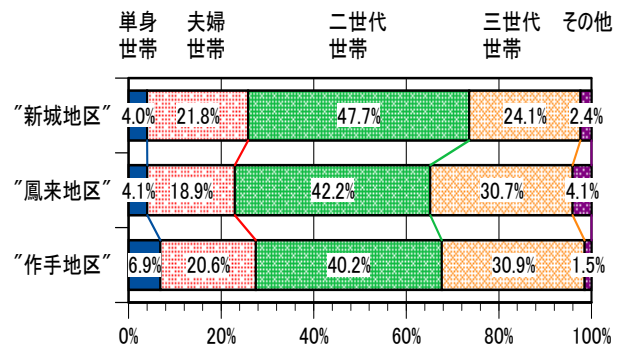


図5 家族構成（地区別）

注：回答者数を基に作成されており、世帯数の構成比ではありません。

問4 子供の有無

（あなたの世帯の18歳以下の子供は。あてはまるものすべてに○印をつけてください。）

最近の少子高齢化を反映して、「18歳以下の子供がいない」と回答した世帯が61.6%に達している。子供のいる世帯の内訳としては、「小学生のいる世帯」が23.2%、「乳幼児のいる世帯」が14.6%などとなっている。地区別に見ると、鳳来地区で「18歳以下の子供がいない」と回答した世帯が65.1%とやや高く、特に小・中学生のいる世帯の割合が低くなっているが、地区による大差は見られない。

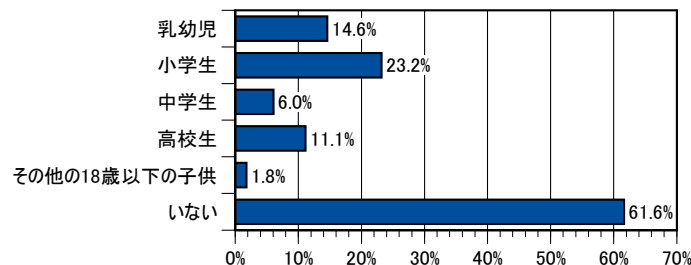


図6 子供の有無

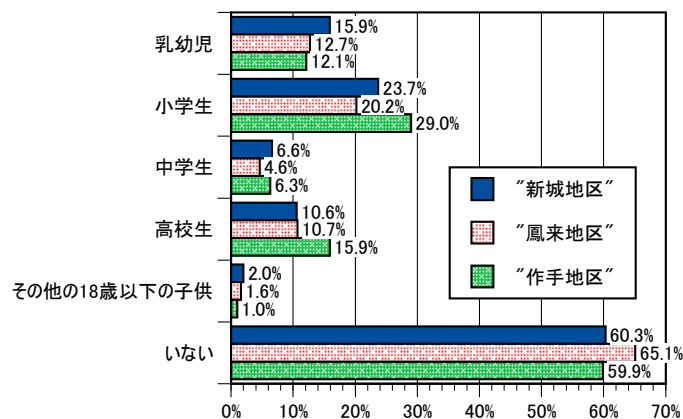


図7 子供の有無（地区別）

問5 職業（あなたの職業は。）

有業者の中では、「会社員・団体職員」が28.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が16.3%となっている。地区別に見ると、鳳来地区で「会社員・団体職員」の割合が高く、33.5%を占めている。また、作手地区は他地区に比べて「農林業自営業者」の割合が高く、15.0%を占めている。

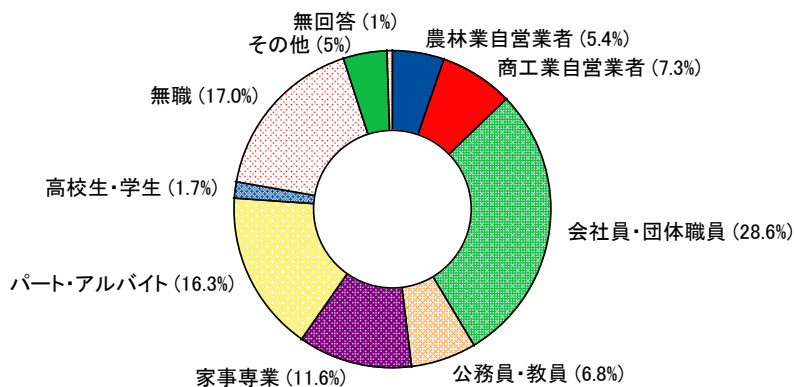


図8 職業

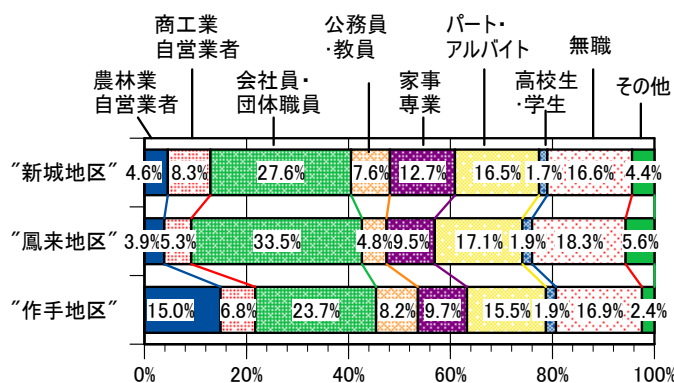


図9 職業（地区別）

問6 小学校区（あなたがお住まいの小学校区は。）

回答者の居住する小学校区の割合を示した。

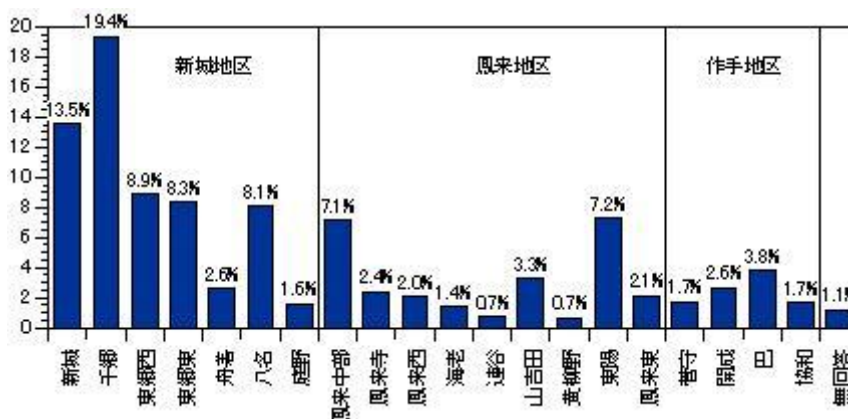


図10 小学校区

問7 居住年数

（あなたは、新城市にお住まいになって何年になりますか。旧市町村（新城市、鳳来町、作手村）を含めた通算年数でお答えください。）

「30年以上」と回答した人が63.1%を占めており、新城市に長期に渡って暮らしている人が多い。地区別に見ると、鳳来地区で「30年以上」と回答した人の割合が最も高くなっている。

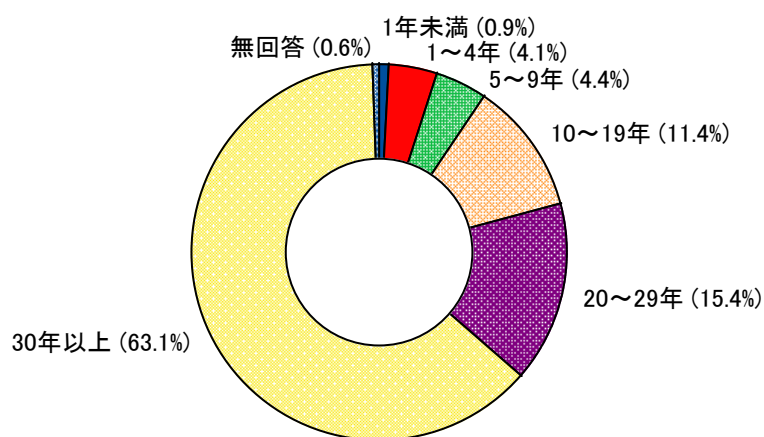


図 11 居住年数

表 1 居住年数（地区別）

	回答数			構成比		
	新城地区	鳳来地区	作手地区	新城地区	鳳来地区	作手地区
1年未満	13	2	2	1.0%	0.4%	1.0%
1~4年	56	18	10	4.3%	3.2%	4.9%
5~9年	62	20	10	4.7%	3.5%	4.9%
10~19年	151	67	23	11.5%	11.9%	11.2%
20~29年	209	81	35	15.9%	14.3%	17.0%
30年以上	823	377	126	62.6%	66.7%	61.2%
合計	1,314	565	206	100.0%	100.0%	100.0%

問8 公共サービスに対する満足度

(新都市内の公共サービスについて、あなたはどの程度満足していますか。)

調査では、公共サービスを「福祉・健康分野」「教育・文化・生涯学習分野」「生活・環境分野」「安全・安心分野」「産業・経済・都市基盤分野」「総合的分野」に大別し、それぞれの分野について複数の項目を設定して満足度を尋ねた。回答者には、各項目について「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4段階で評価して頂いたが、ここでは無回答だった者を除く回答者のうち、「満足」「やや満足」と回答した者の割合を満足率と定義し、以下ではこの満足率を評価指標として各分野の公共サービスに対する住民の満足度を検討した。

分野別の傾向として「教育・文化・生涯学習分野」、「安全・安心対策分野」、「総合的分野」の満足率が高く、「産業・経済・都市基盤分野」の満足率が低めとなっている。

また、「福祉・健康分野」、「生活環境分野」は各項目で判断が分かれている。

【前回調査結果との比較】

「地域情報化への取組み」は11.4ポイント上昇した。都市部に比べて遅れていた光ファイバー網を市が設置したことや市ホームページ情報の充実、市政番組の開始など情報化への取組みについて充実したことを評価されたためと考えられる。

「社会保障制度の充実」は11.0ポイント上昇した。前回は、政治家の国民年金の未納問題や公的年金流用問題などによる年金不信が広がっていたためか厳しい評価になったが、その後の消えた年金問題に対する国等の対応への評価や、年金問題に対する国民の関心が薄らいだことからの上昇であると推測される。

「地域医療等の充実」は7.5ポイント上昇した。前回は、新都市民病院の医師不足問題で揺れていたため厳しい評価であったが、この問題に対し、市の重点目標として夜間診療所の開設や訪問看護の充実など各種施策を行ったことが評価されたためと考えられる。

その他には、「ごみ・し尿処理への取組み」(7.8ポイント)、「衛生的な下水・雨水の処理」(6.6ポイント)で満足率の上昇が大きかった。

一方、「第2次産業（鉱業、建設業、製造業）の振興」に対する満足率が5.1ポイント低下した。第1次産業、第3産業に対する評価も低下していることから、リーマンショック以降の景気の低迷に対する不安が高まっていることなどが主な要因と考えられる。

また、教育・文化・生涯学習分野については、全体として満足率が高いものの、「歴史遺産、文化財の保護・活用」で5.0ポイント、「文化、芸能等の振興、保存」で4.4ポイント低下した。戦国時代における合戦の舞台として非常に有名な史跡等を多数持ちながらも、地域資源として十分に活用できていないこと、また、少子高齢化に伴い地域の文化、芸能などの継承に不安を感じていること等が結果に影響していると考えられる。

表2 公共サービスに対する満足率の変化

分類	項目	今回	前回	増減
福祉・健康	1. 子育てを応援するためのサービス	62.2%	64.5%	-2.3
	2. 高齢者の自立支援や福祉対策	59.2%	62.5%	-3.3
	3. 障害者の自立支援や福祉対策	57.1%	55.4%	1.7
	4. 健康づくり支援の充実	63.9%	65.2%	-1.3
	5. 地域医療等の充実	22.8%	15.3%	7.5
	6. 社会保障制度の充実	42.7%	31.7%	11.0
教育・生涯・学習・文化	1. 児童・生徒の教育環境対策	57.9%	55.8%	2.2
	2. 学校教育施設の整備	62.5%	61.7%	0.8
	3. 文化、芸能等の振興、保存	64.8%	69.2%	-4.4
	4. 文化施設の整備充実	59.1%	60.7%	-1.6
	5. 歴史遺産、文化財の保護・活用	68.2%	73.2%	-5.0
	6. 生涯学習の推進	63.8%	65.4%	-1.7
	7. スポーツに親しむ環境づくり	59.6%	62.6%	-3.0
	8. 青少年の健全育成	55.5%	57.5%	-2.1
生活・環境	1. 暮らす場の整備	51.5%	53.1%	-1.6
	2. 快適な生活道路の整備	45.0%	45.5%	-0.5
	3. 憩い空間の充実	42.3%	42.0%	0.3
	4. 通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	37.1%	32.1%	4.9
	5. 安全な水の供給	75.5%	72.2%	3.3
	6. 衛生的な下水・雨水の処理	61.9%	55.3%	6.6
	7. ごみ・し尿処理への取組み	66.4%	58.5%	7.8
	8. 環境対策への取組み	62.7%	57.6%	5.2
安心対策・安全	1. 交通安全対策の推進	50.2%	49.1%	1.0
	2. 防犯対策への取組み	57.5%	58.2%	-0.7
	3. 大地震対策への取組み	50.1%	47.3%	2.8
	4. 地域の防災組織の充実	65.7%	62.7%	3.0
	5. 消防・救急体制の充実	60.9%	57.4%	3.5
産業・都市基盤・経済	1. 第1次産業(農林水産業)の振興	50.2%	53.7%	-3.5
	2. 第2次産業(鉱業、建設業、製造業)の振興	41.6%	46.7%	-5.1
	3. 第3次産業(サービス業)の振興	33.3%	35.4%	-2.2
	4. にぎわいの創出と交流人口対策	43.6%	44.1%	-0.5
	5. 便利な市街地・中心街の整備	29.7%	29.7%	0.0
	6. 円滑な道路網の整備	54.4%	47.3%	7.1
	7. 市の宣伝・情報提供の充実	39.7%	39.6%	0.1
総合	1. 市の広報・広聴の充実	67.1%	62.8%	4.3
	2. 窓口サービスの対応	70.1%	66.3%	3.8
	3. 地域情報化への取組み	66.2%	54.8%	11.4
	4. 住民自治の活性化	57.8%	53.7%	4.1
	5. 住民参加への取組み	57.8%	54.4%	3.4
	6. 国際交流への取組み	60.8%	59.6%	1.2
	7. 広域連携への取組み	53.6%	50.5%	3.1
	8. 市の一体感を感じる取組み	53.8%	-	

【分野別】

福祉・健康分野

「地域医療等の充実」に対する満足率が 22.8%となっており、他の分野も含めて今回の公共サービスに対する評価の中で最も満足率が低い。全国的傾向として、高齢化が進む中で地域医療に対するニーズは高まってきているが、一方で医師不足や病院経営問題を背景に多くの地方都市で医療サービスの低下が起きており、新都市においても市民病院の診療科の減少や山間集落における民間診療所の閉鎖などの問題が生じているためと考えられる。また、「社会保障制度の充実」に対する満足率も 42.7%と 5 割を下回っており、評価が低い。国会やマスコミにおいて年金問題が様々に取り上げられる機会が多いことが、評価が低い一因となった可能性がある。

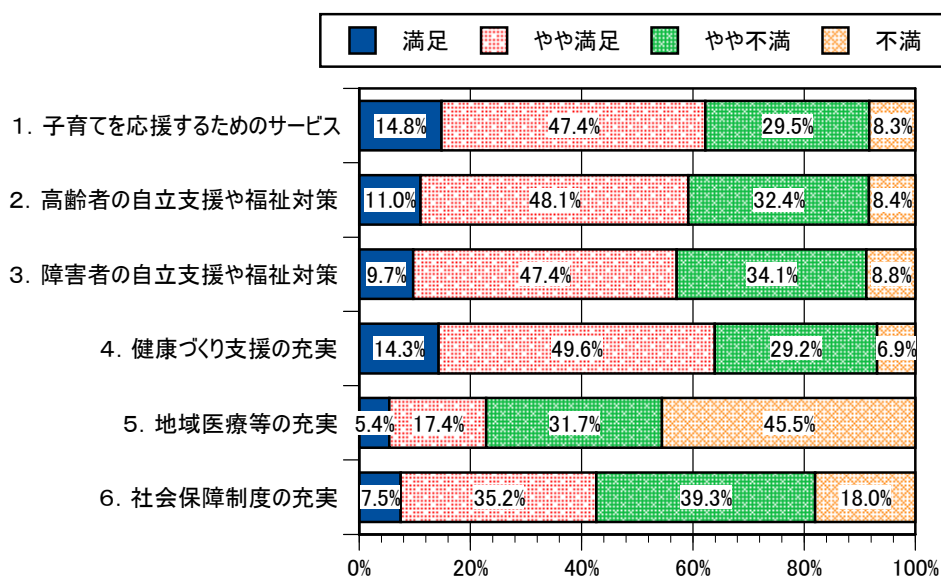


図 12 福祉・健康分野に対する評価

教育・文化・生涯学習分野

全ての項目で満足率が50%を超えており、全体的に評価が高い。特に「歴史遺産、文化財の保護・活用」については、他の項目に比べ68.2%と高くなっている。新城市が長篠・設楽原の戦いの舞台となったこともあり、これに関連した伝統行事などが続けられていることが評価されたと考えられる。

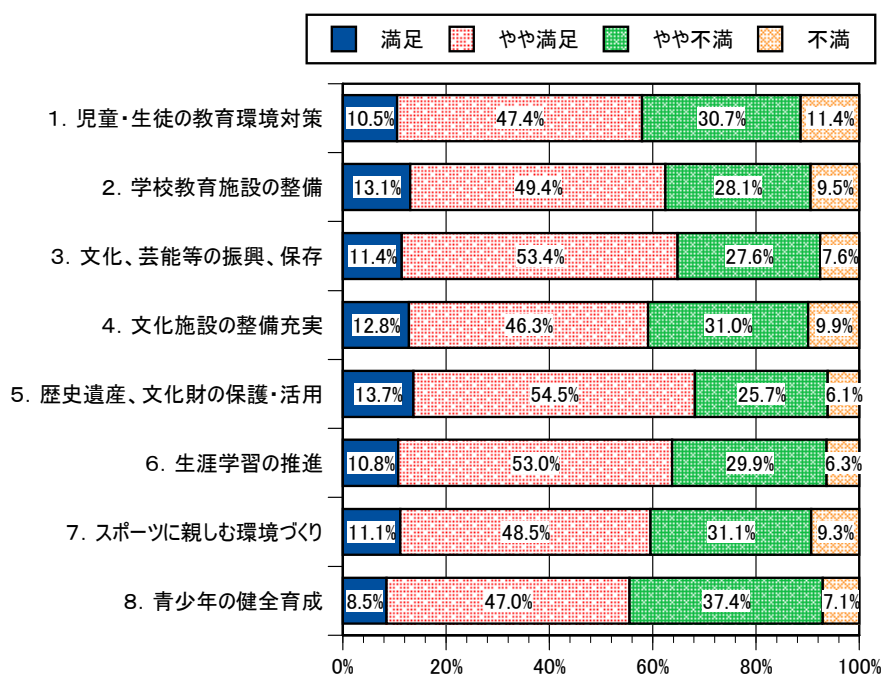


図 13 教育・文化・生涯学習分野に対する評価

生活・環境分野

生活・環境分野については、項目によって評価に大きな差が出ている。衛生に関する項目については評価が全般的に高く、「安全な水の供給」については満足率が75.5%と、生活・環境分野以外の項目も含めて最も評価が高い。一方、交通や道路整備に関する項目については評価が低く、特に「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」については、満足率が37.1%と非常に低い。高齢者の増加に伴い公共交通に頼らざるを得ない人が増加したことにより、公共交通の充実が望まれている。特にJR飯田線の新城駅以北の運行本数が少ないことや、駅のバリアフリー化の遅れなどに不満を持つ人などのあらわれと考えられる。また、「憩い空間の充実」で42.3%、「快適な生活道路の整備」で45.0%と満足率が低くなっており、生活の質的向上を目指すインフラの整備に対して不満を感じている人が多いと言える。

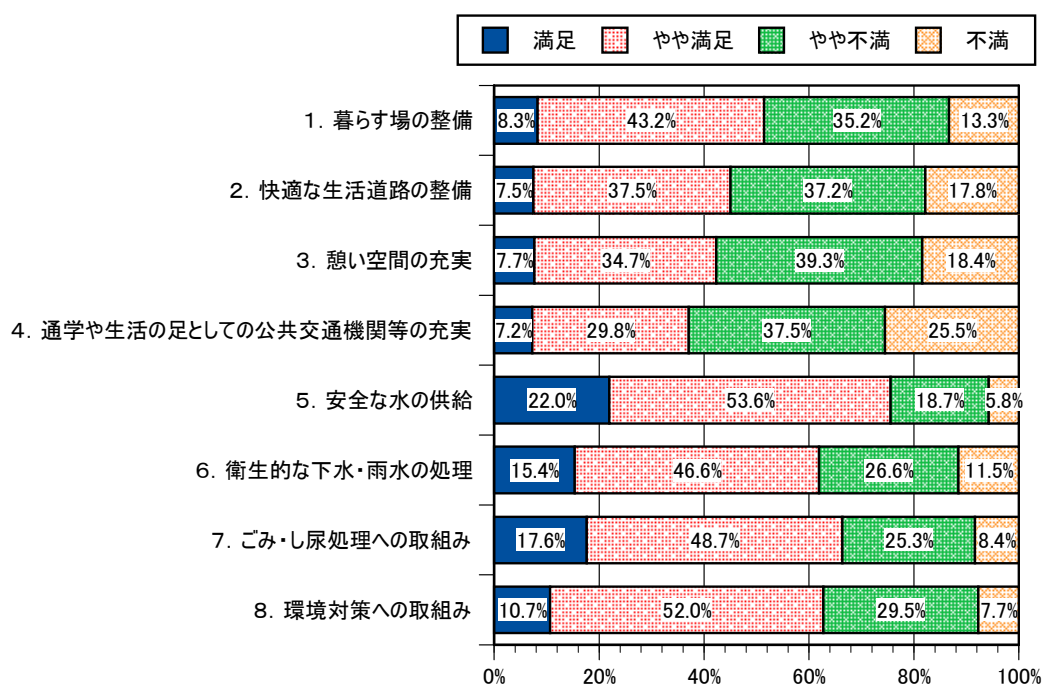


図 14 生活・環境分野に対する評価

安全・安心対策分野

全ての項目で満足率が50%を上回っている。ただし、「大地震対策への取組み」で50.1%、「交通安全対策の推進」で50.2%となっており、満足と不満がほぼ同数という状況にある。新城市は中央構造線が走っており、近い将来に発生が予想されている東海地震の地震防災対策強化地域や東南海地震・南海地震の地震防災対策推進地域に指定されていることから、更なる大地震対策への取組みが求められている。また、交通安全対策の推進についても、市内に国道151号、257号、301号、420号や県道などの幹線道路が走っているが、歩道も含めて道路整備が遅れている地域もあり、不満を感じる者が少なくない。

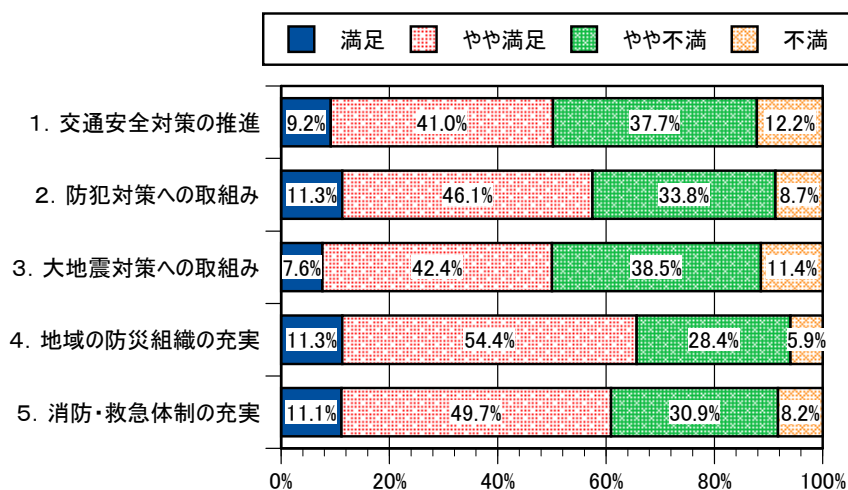


図 15 安全・安心対策分野に対する評価

産業・経済・都市基盤分野

産業・経済・都市基盤分野については評価が低い項目が多い。特に「便利な市街地・中心街の整備」については満足率が29.7%に留まっており、「第3次産業（サービス業）の振興」についても33.3%と低くなっている。国道151号のバイパスの整備に伴い、バイパス沿道に商業施設が出店して人の流れが変わり、既存の中心市街地にある商業機能が衰退してしまったことに対して不満を感じている人が多いためと推測される。また、「市の宣伝・情報提供の充実」についても満足率が39.7%と低くなっているが、人口減少が進む中で、観光客等の交流人口の獲得に関する市の取り組みが十分でない判断している人が多いためと推測される。

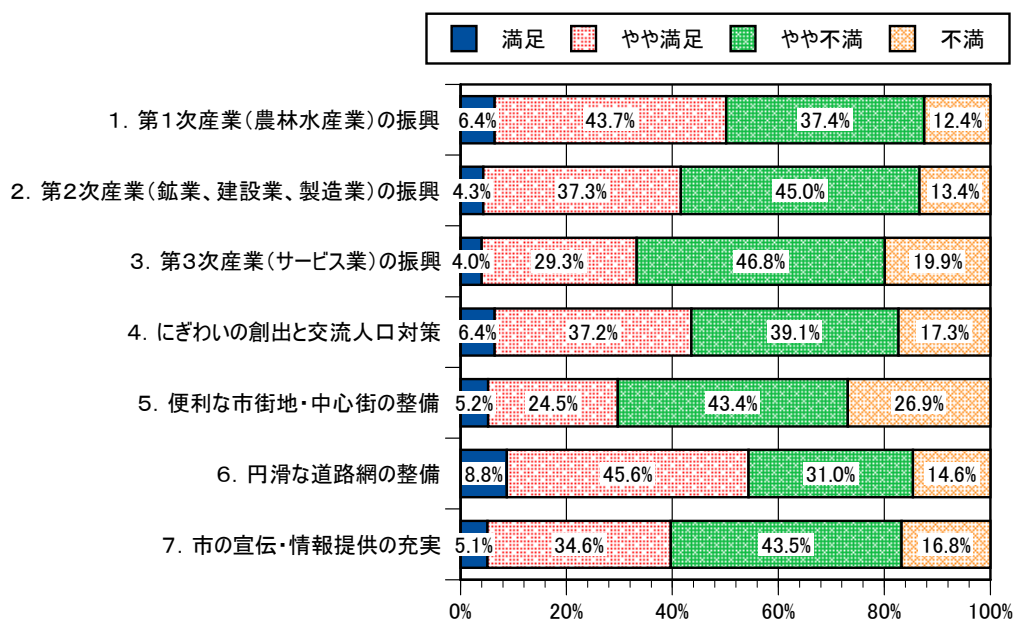


図 16 産業・経済・都市基盤分野

総合的分野

全ての項目で 50%を上回っている。特に、市民と職員が接する「窓口サービスの対応」は満足率が 70.1%と高い評価を得ている。

「広域連携への取組み」は、満足率が 53.6%と評価が分かれている。周辺市町村等との広域連携による取り組みは、効果が市民に実感されにくい分野であることから評価が分かれたと考えられる。

「市の一体感を感じる取組み」は満足率が 53.8%となっており、市政 5 周年式典を始めとして、市の一体感が感じられるよう、より一層の啓発や取組が求められる。

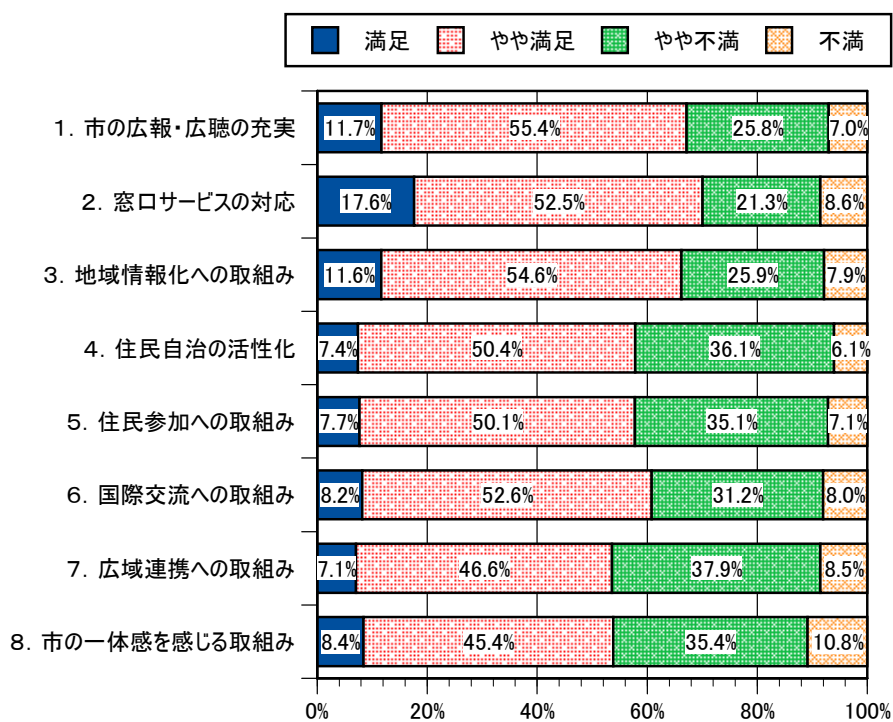


図 17 総合的分野に対する評価

【地区別】

新城地区：市平均の傾向と大差ないが、「地域医療等の充実」の項目については市平均を大きく下回っている。

鳳来地区：特に「生活・環境分野」の項目で、市平均を下回る項目が多い。

作手地区：「福祉・健康分野」を除いて市平均を下回る項目が多い。特に、「教育・文化・生涯学習分野」、「産業・経済・都市基盤分野」、「総合的分野」で下回る項目が多い。

※下図中棒グラフは地区別の満足率、点線は市平均の満足率を表している。

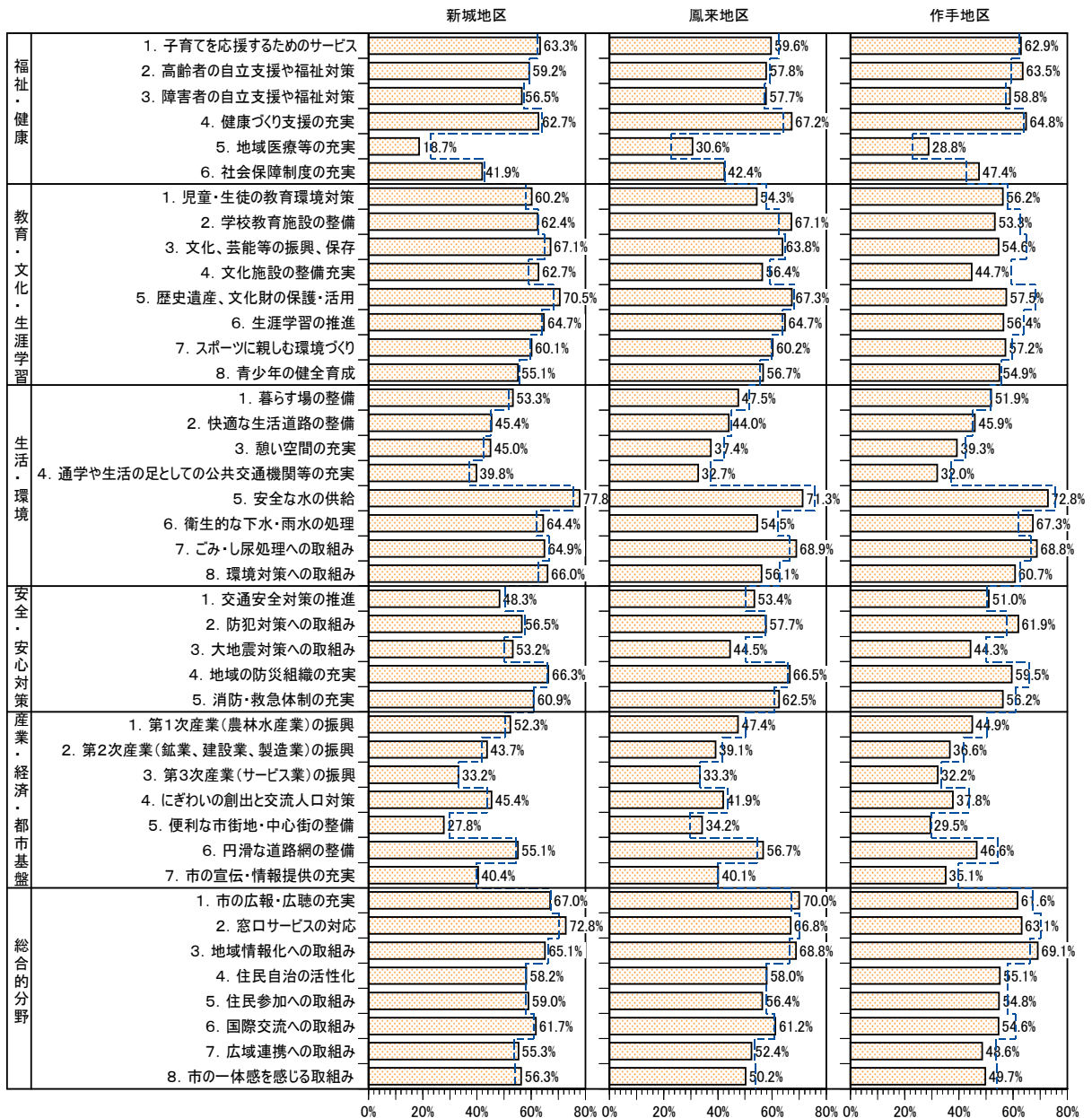


図 18 公共サービスに対する満足度（地区別）

【年代別】

18～29歳と30～39歳では、「子育てを応援するためのサービス」、「児童・生徒の教育環境対策」、「学校教育施設の整備」に対して市平均よりも評価が低くなっている点で共通しており、他の年齢層に比べて子育て・教育環境に対して不満が多い。

40～49歳は全体的に満足率が低く、「子育てを応援するためのサービス」、「地域の防災組織の充実」、「第1次産業の振興」、「国際交流への取り組み」の項目以外は市平均を下回っている。

※下図中棒グラフは年代別の満足率、点線は市平均の満足率を表している。

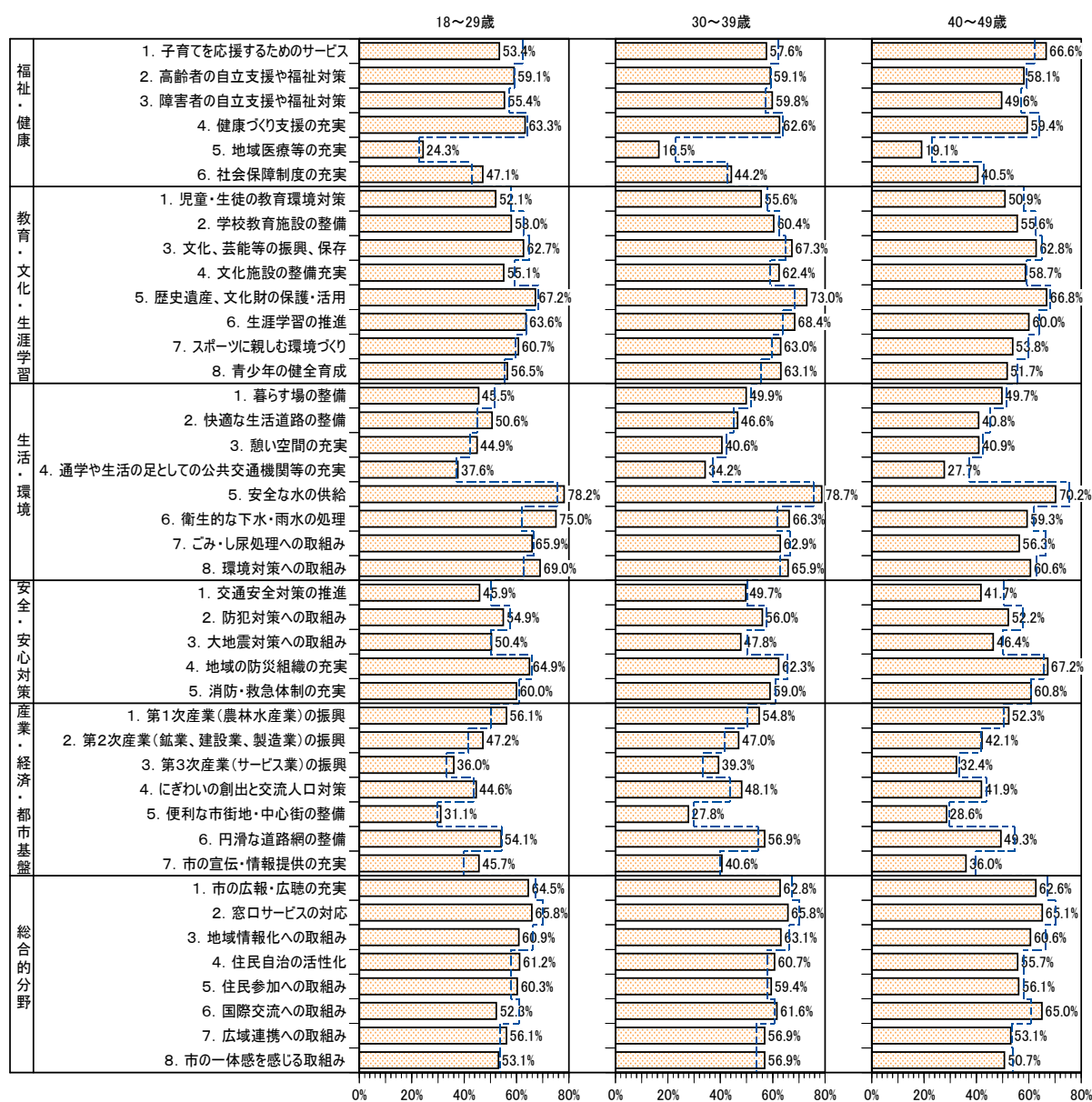


図 19 公共サービスに対する満足度 (年代別)

50～59歳も全体的に満足率が低く、全ての項目について市平均を下回っている。特に、産業・経済・都市基盤分野で市平均を大きく下回る項目が多い。

60～69歳は、市平均を上回る項目が多い。但し、産業の振興については市平均を下回っている。

70歳以上は、福祉・健康分野のサービスの主たる利用者であるが、この分野に対する満足率は市平均を大きく上回っている。一方で、総合的分野に対する評価は市平均を下回る項目が多い。

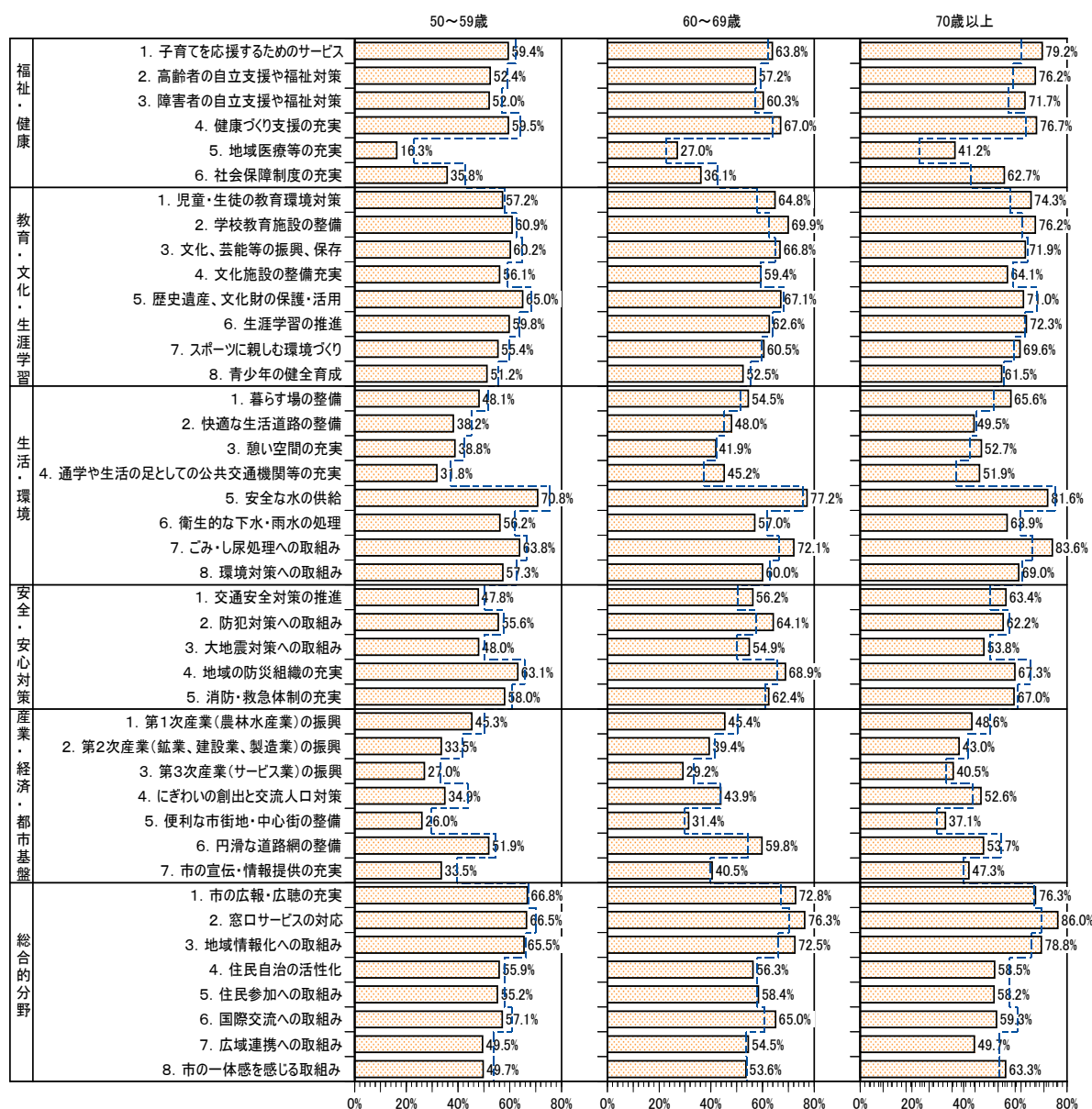


図 19 公共サービスに対する満足度 (年代別)

第3章 これからのまちづくり

問9 定住意向

(あなたは、今後も新都市内に住みたいですか。あてはまるお考え・理由に1つだけ○印をつけてください。)

新都市での今後の定住意向を尋ねる問いに対して、「住みたい」との回答が78.5%、「移転したい」が12.2%、「その他」が9.3%となっており、定住希望が圧倒的に多い。「住みたい」と回答した者の内訳をみると、「家族と一緒に住みたいから」が31.1%で最も高く、次いで「豊かな自然に恵まれているから」が19.7%となっている。一方、「移転したい」と回答した者の内訳をみると、「この地域に魅力的な働く場がないから」との回答が4.5%で最も多い。

【前回調査結果との比較】

「住みたい」との回答は78.9%から78.5%へとほぼ変化が無かったが、「移転したい」との回答が9.9%から12.2%へと上昇した。内訳を見ると、「この地域に魅力的な働く場がないから」との回答が3.4%から4.5%へ上昇しており、市内での就職機会の少なさが移転希望につながっている。このため、新東名高速道路（仮称）新城インターなどの開設にあわせた企業誘致や新規学卒予定者等を対象にした地元企業の説明会などの施策について、一層の強化が望まれる。

なお、年齢層18～29歳の層における「住みたい」が前回52.8%から57.7%へ上昇しており、豊かな自然に恵まれている点を理由と上げている人が多くなった点が注目される。

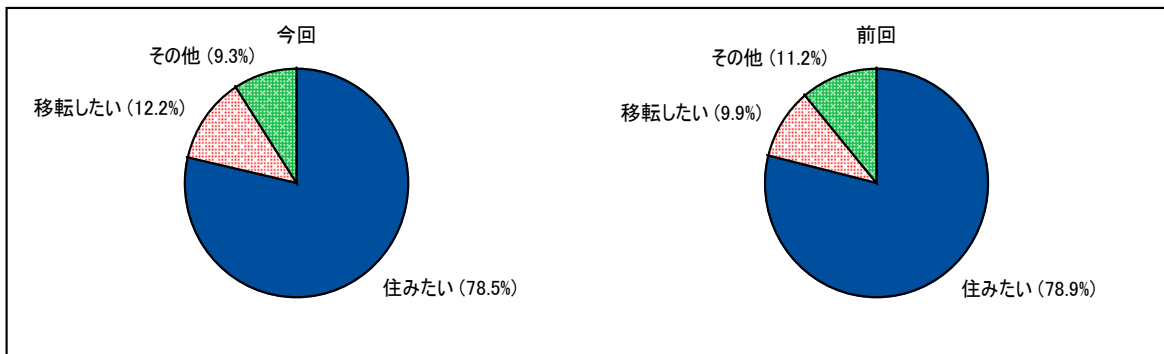


図20 定住意向

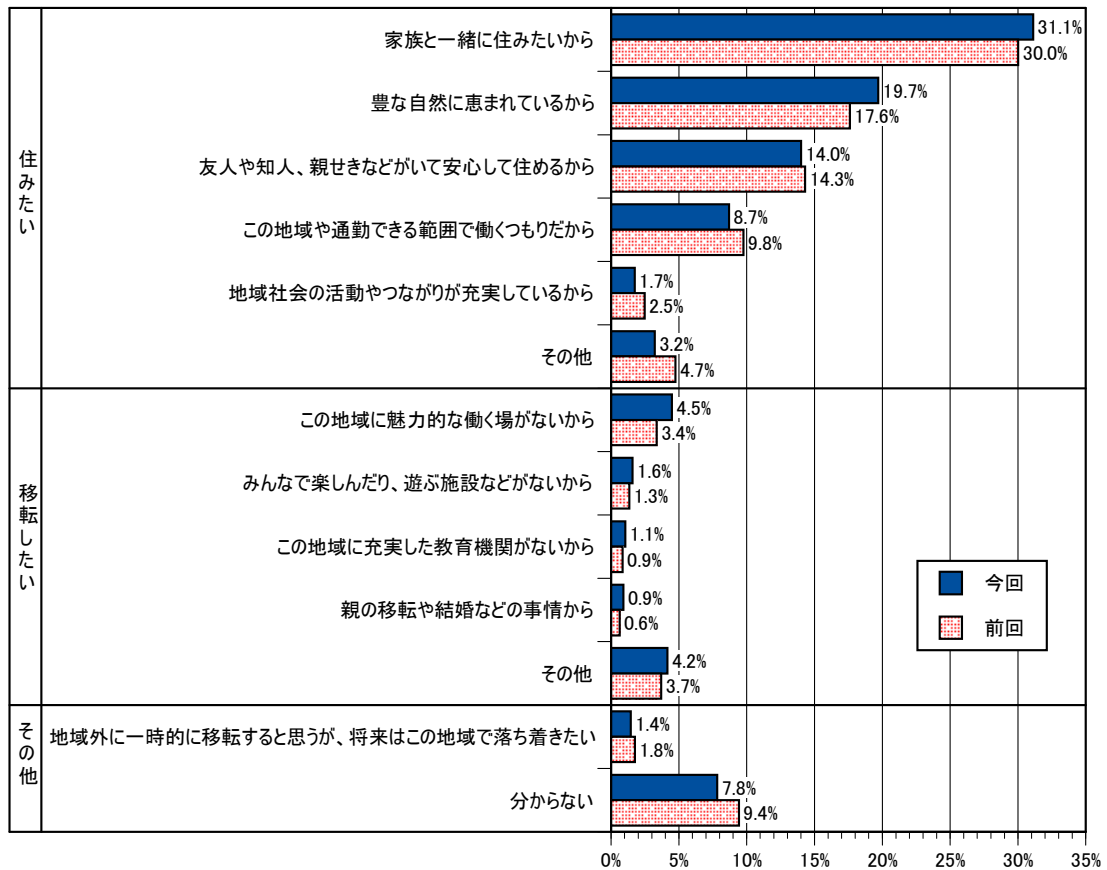


図 21 定住意向詳細

【地区別】

新城地区：市平均と比べて「住みたい」との回答がやや多くなっている。

鳳来地区：「住みたい」との回答が他地区に比べてやや少なくなっている。

作手地区：3地区の中では定住希望が最も多くなっており、特に「豊かな自然に恵まれているから」との回答が30.0%と他の地区を10ポイント程度上回っている。

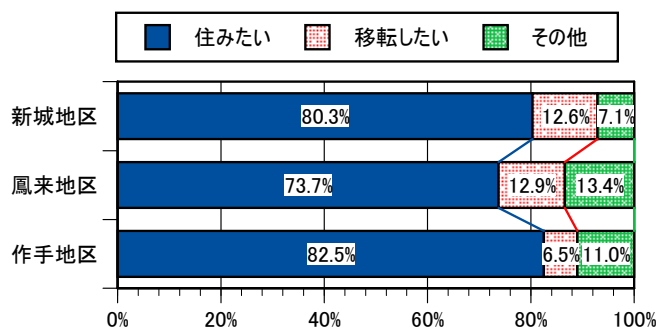
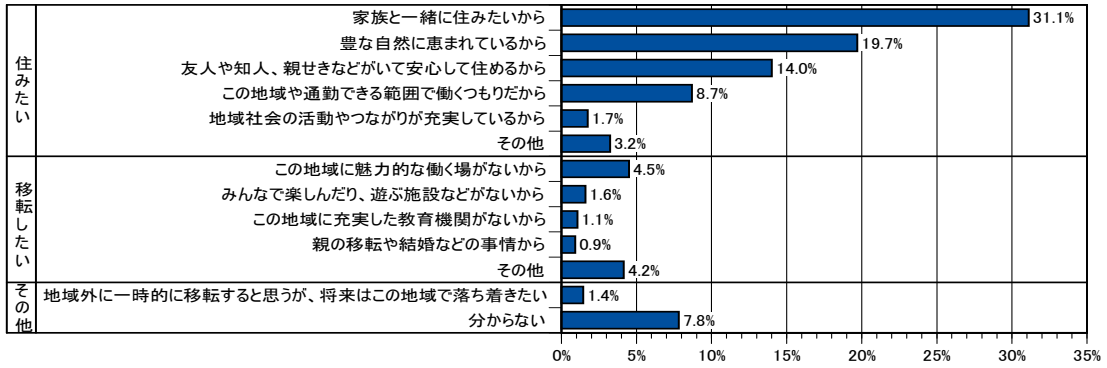
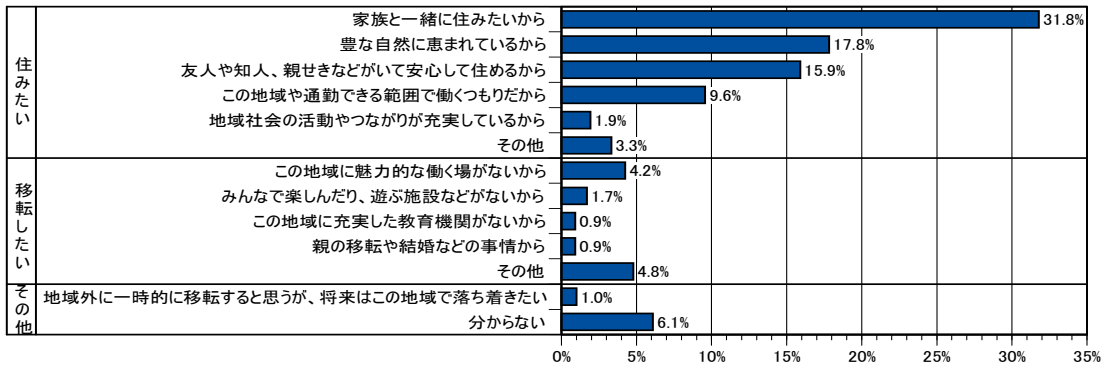


図 22 定住意向（地区別）

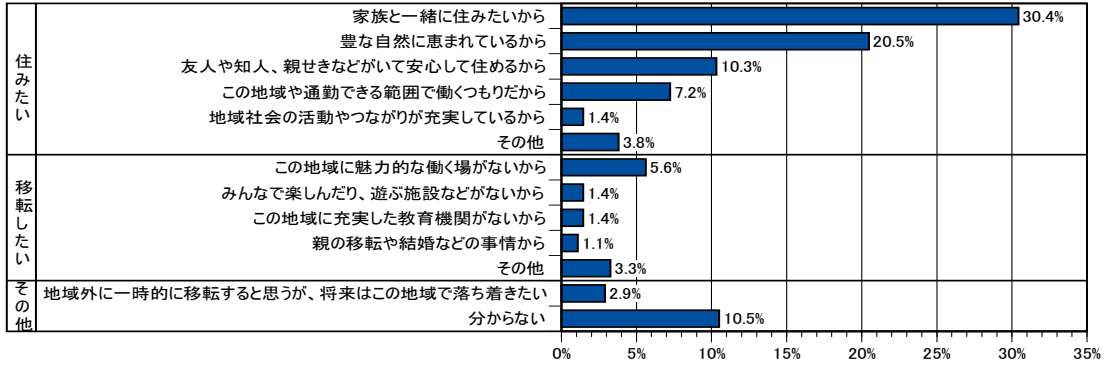
【市全体】



【新城地区】



【風来地区】



【作手地区】

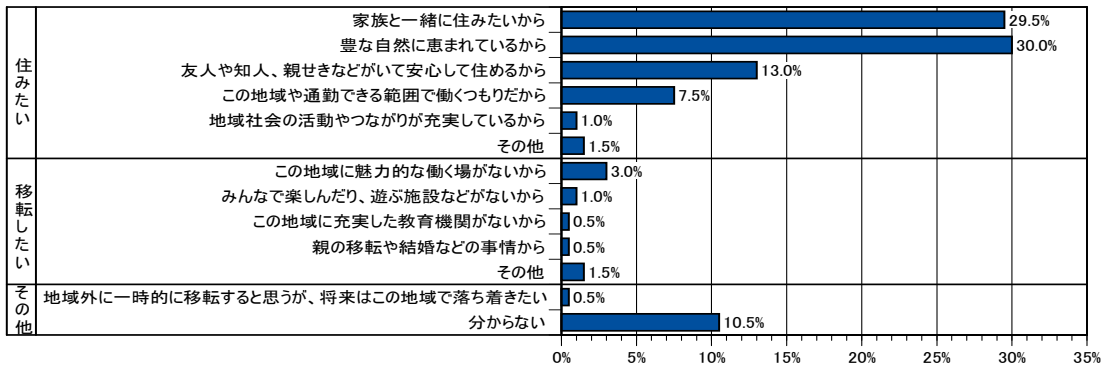


図 23 定住意向詳細（地区別）

【年代別】

年齢層が低くなるにつれて定住希望は少なくなっている。18～29歳では「住みたい」との回答が57.7%に留まる一方、「移転したい」は24.6%に達している。特にこの年齢層では「この地域に魅力的な働く場がないから」との回答が12.5%と高くなっている。

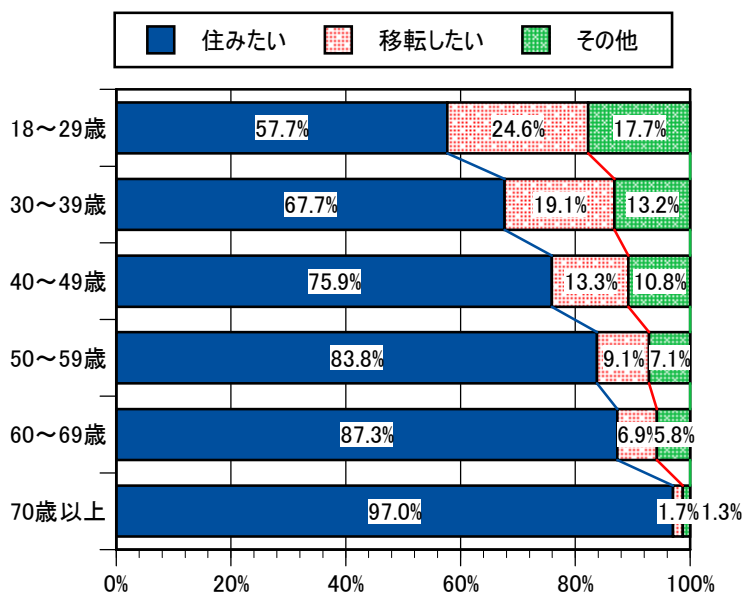
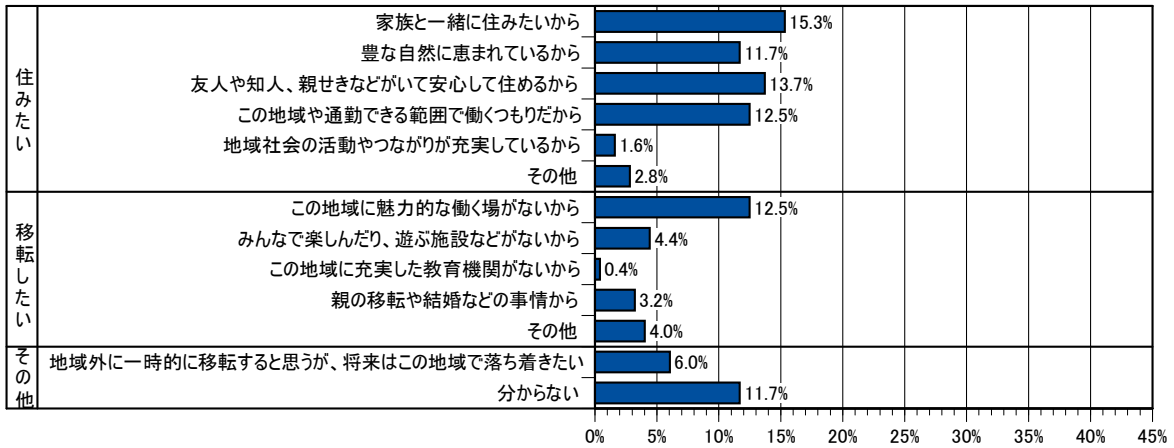
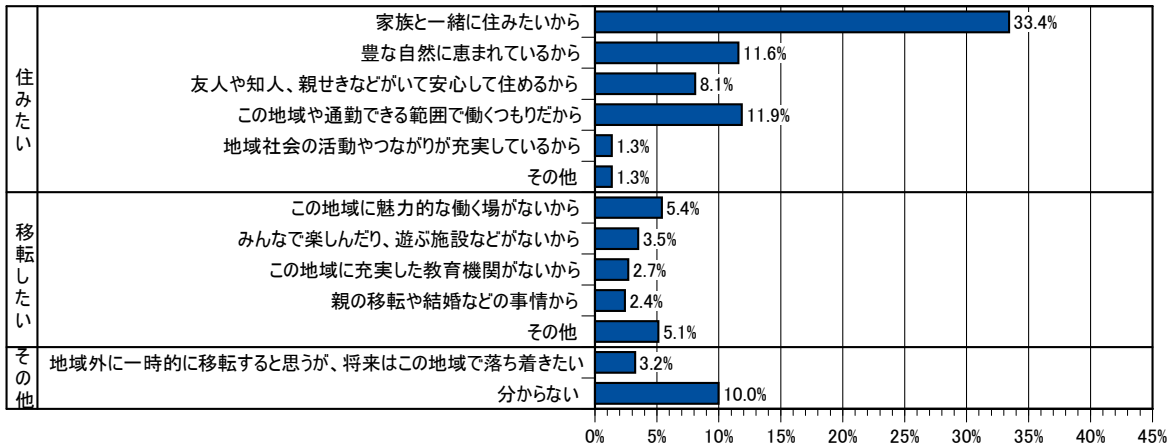


図 24 定住意向（年代別）

【18～29歳】



【30～39歳】



【40～49歳】

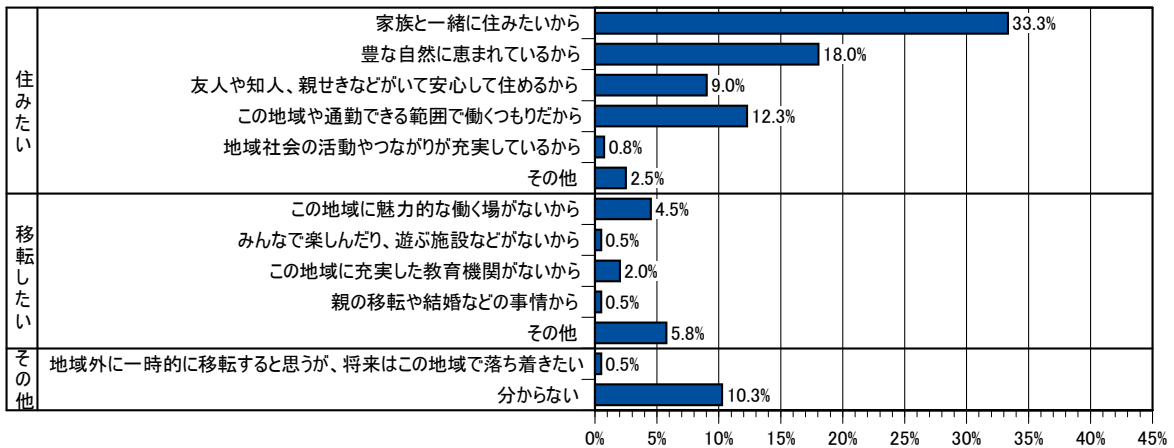
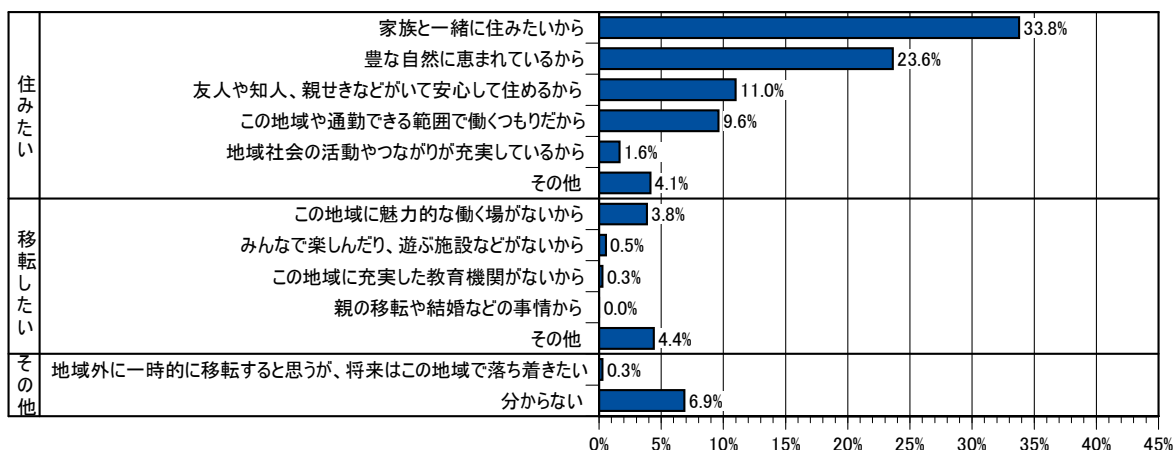
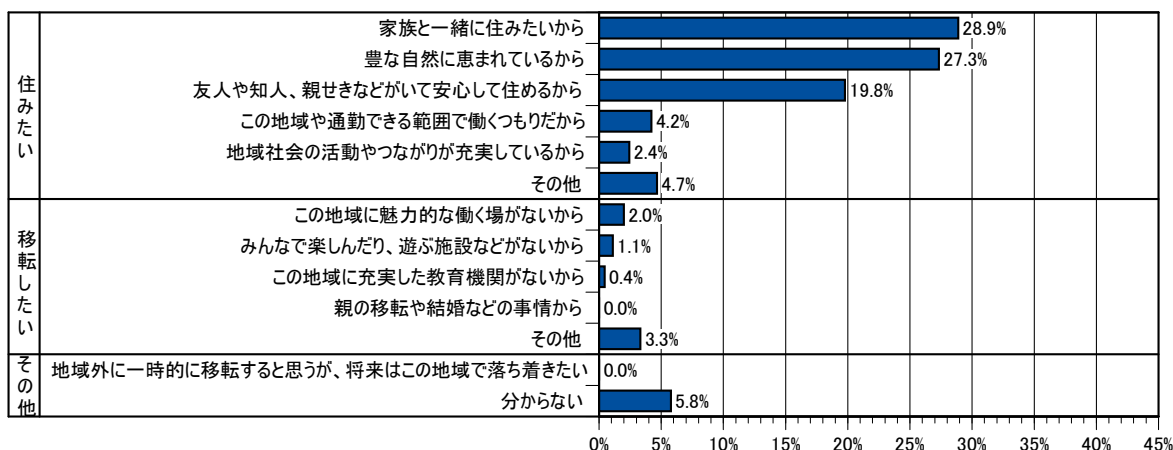


図 25 定住意向詳細（年代別）

【50～59歳】



【60～69歳】



【70歳以上】

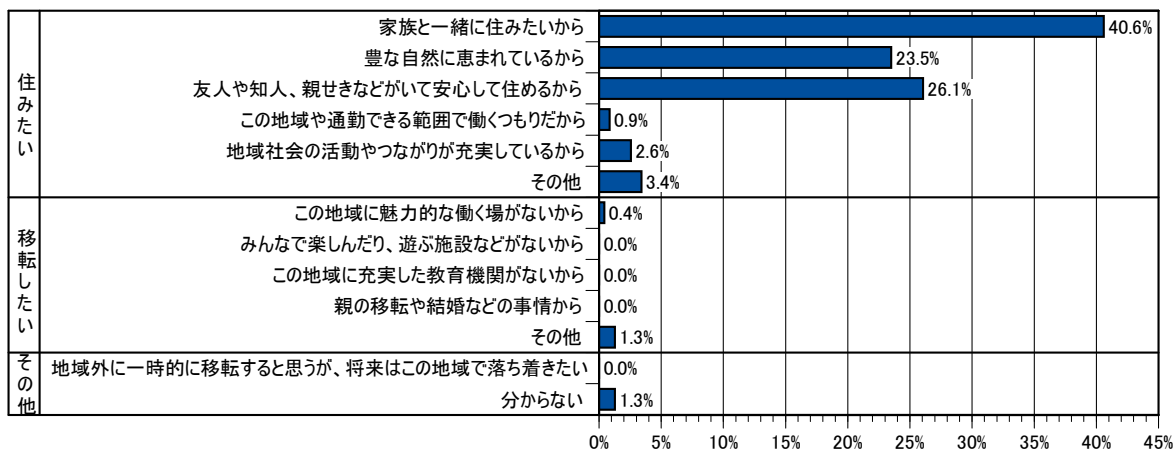


図 25 定住意向詳細（年代別）

問 10 有効と思われる定住促進策

(新都市の定住を促進するため、どのような対策を充実させる必要があると思われますか。3つまで○印をつけてください。)

「病院や診療施設などの充実」を挙げた人が 78.6%に達し、目立って多い。新都市における医療サービスに不安を感じている人が多いためと考えられる。次いで、「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」が 32.6%、「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」が 32.3%と高くなっている。

【前回調査結果との比較】

「病院や診療施設などの充実」との回答が最も多い状況に変化はない。ただし、「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」(6.8 ポイント増)、「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」(4.2 ポイント増)、「企業誘致などによる働く場の整備」(3.4 ポイント増)との回答が増加しており、新東名高速道路や三遠南信自動車道路の整備にあわせた地域の活性化を目的とした施策の充実を求める傾向が見られる。

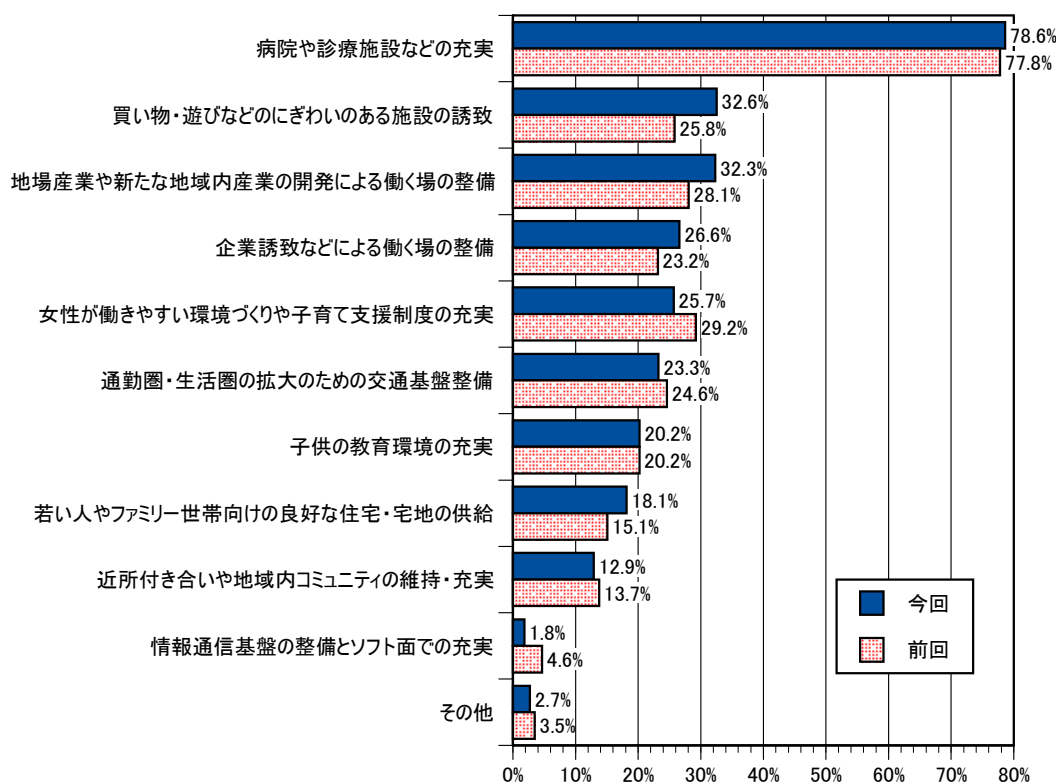


図 26 有効と思われる定住促進策

【地区別】

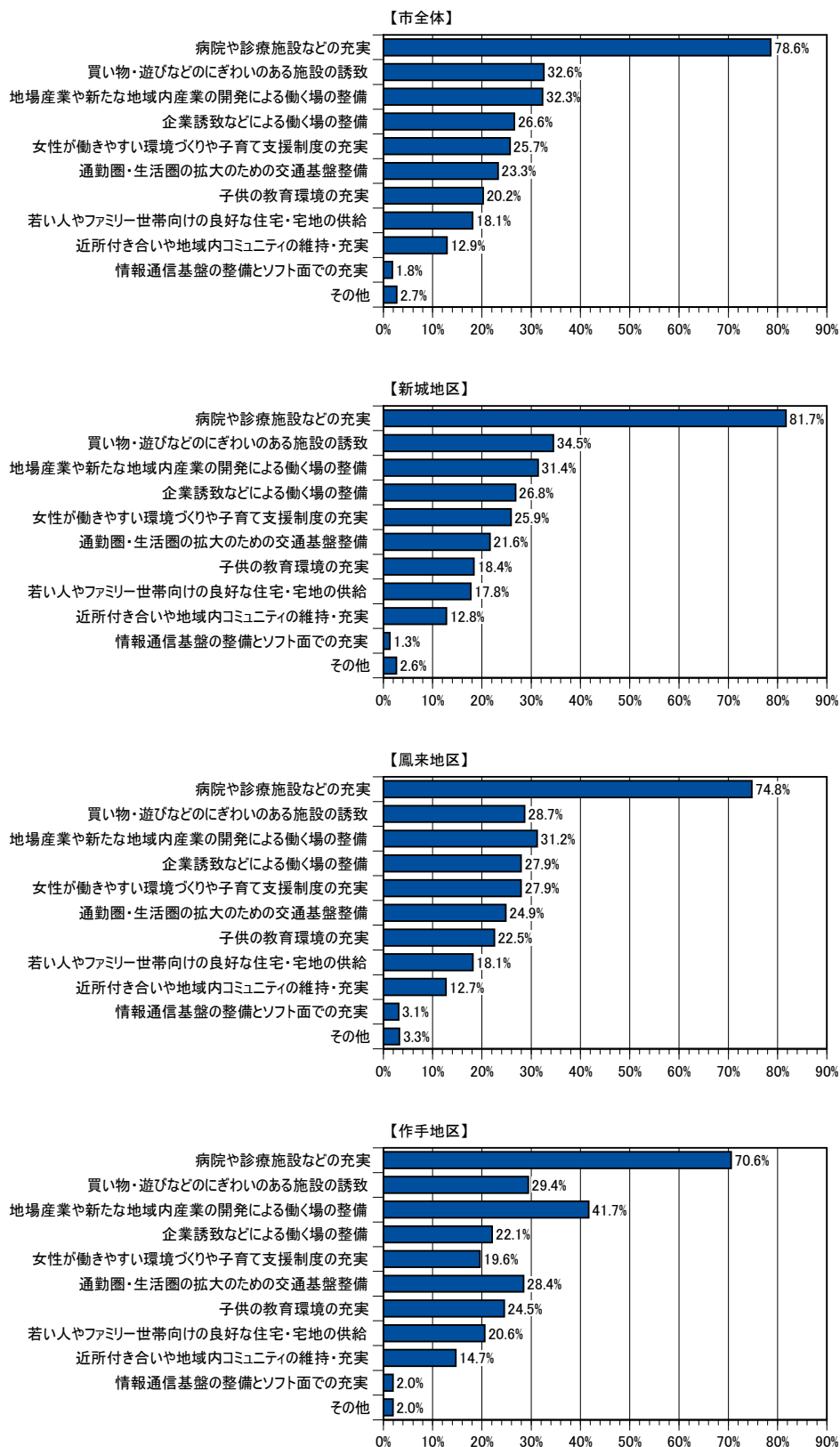


図 27 有効と思われる定住促進策（地区別）

【年代別】

どの年齢でも「病院や診療施設などの充実」との回答が最も多くなっている。

移住希望の多い若い年齢層では「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」の比率が比較的高く、18～29歳で47.6%、30～39歳で45.6%となっている。また、「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実」「子供の教育環境の充実」「若い人やファミリー世帯向けの良好な住宅・宅地の供給」との回答については、若い世代ほど多くなる傾向が見られる。一方、高齢の世帯では「近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実」を挙げる人が多く、70歳以上では36.2%に達している。

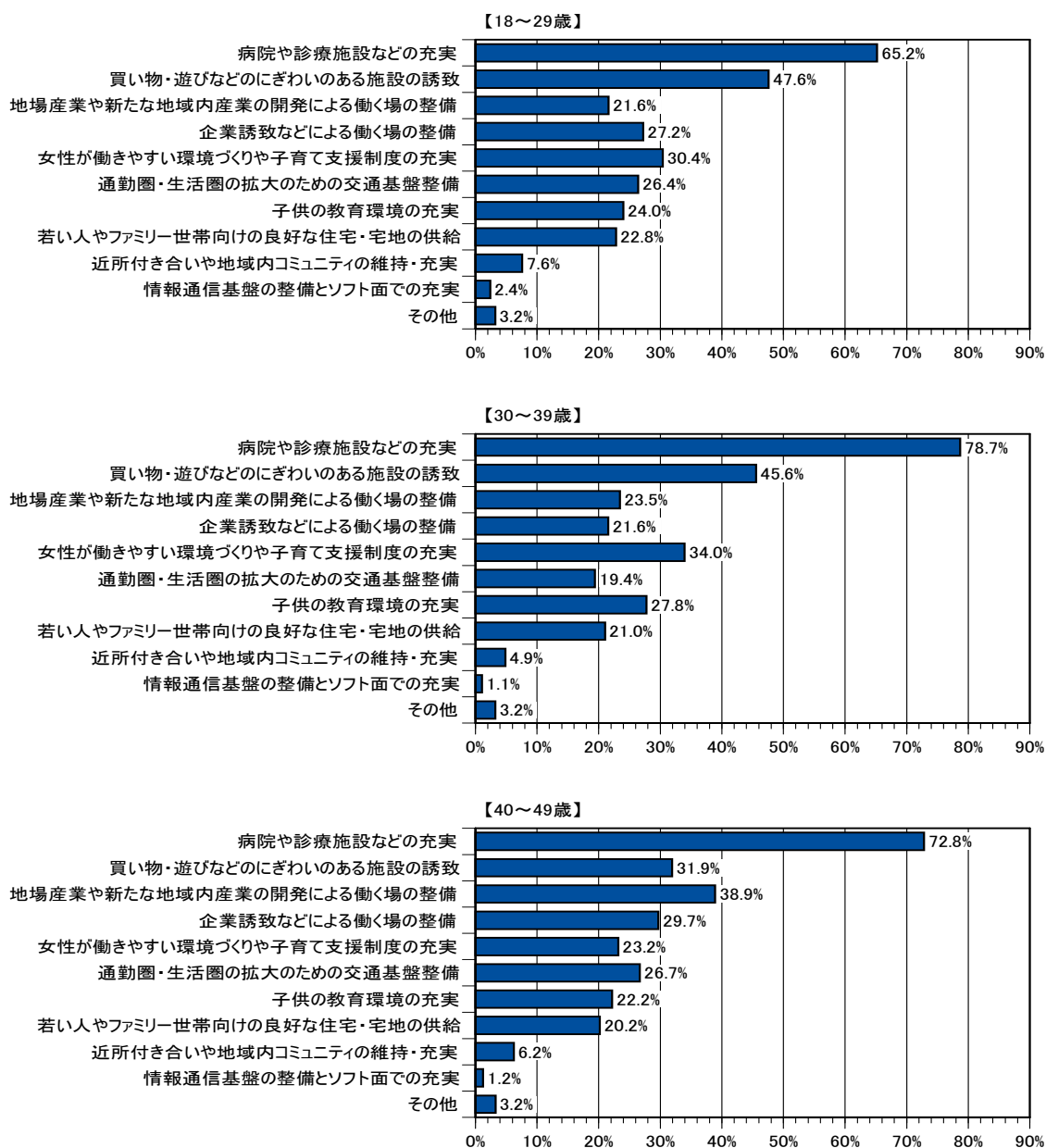


図 28 有効と思われる定住促進策（年代別）

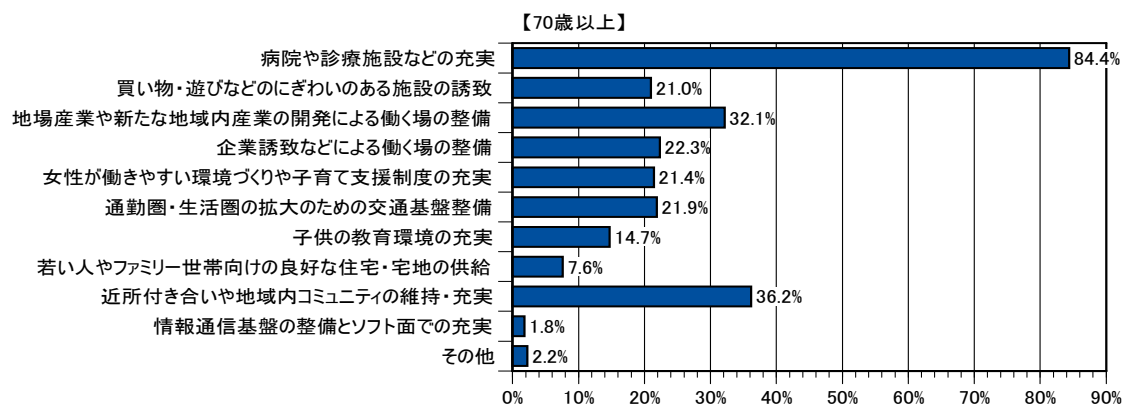
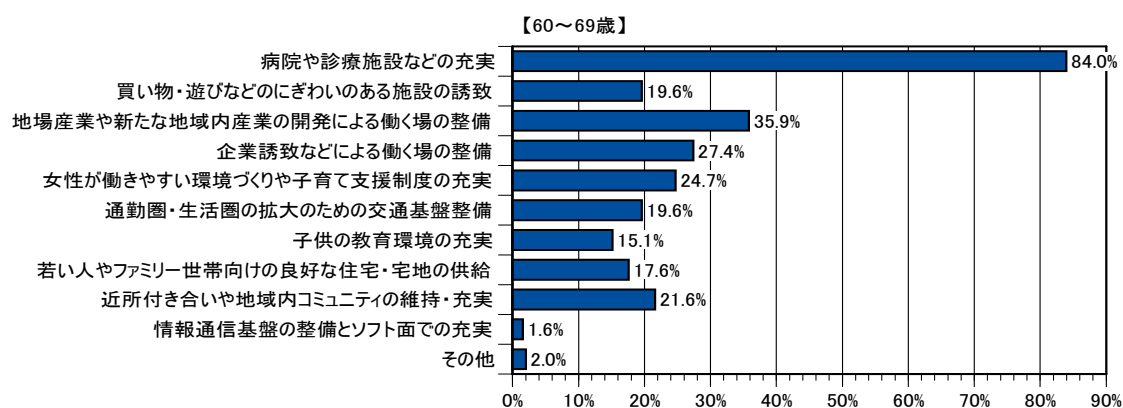
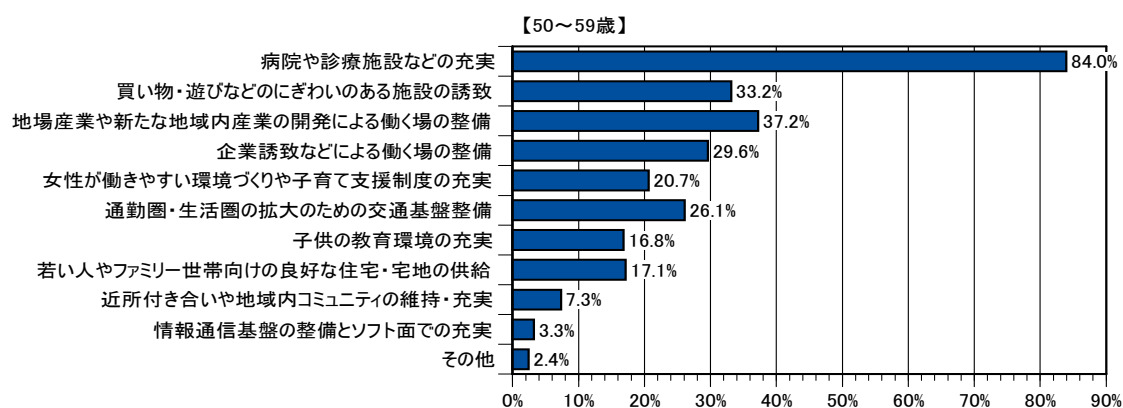


図 28 有効と思われる定住促進策（年代別）

問 11 参加・協力したい住民自治活動

（あなたは地域の住民自治活動の中で、参加・協力していきたいものがありますか（現在行ってさらに継続して参加・協力したいものも含む）。あてはまるものすべてに○印をつけてください。）

「地域の清掃・美化、環境保護の活動」42.4%、「地域で行うスポーツや趣味のサークル活動」38.8%、「行政区・集落・コミュニティ活動」37.3%の3つが多い。

【前回調査結果との比較】

上位3つの活動への参加希望が多い状況に変化はないが、「行政区・集落・コミュニティ活動」や「子ども会などの青少年育成活動やPTA、老人クラブ活動」の参加希望が低下し、「地域の清掃・美化、環境保護の活動」、「地域の歴史・文化などの保護伝承活動」、「障害者支援や老人介護などのボランティア活動」、「地域のまちづくりを考える活動や行政への提言・参加」など特定課題を対象とした活動の参加希望が増加した。住民自治活動に対する意識が多様化していることが伺え、活動の推進にあたっては配慮を要する。

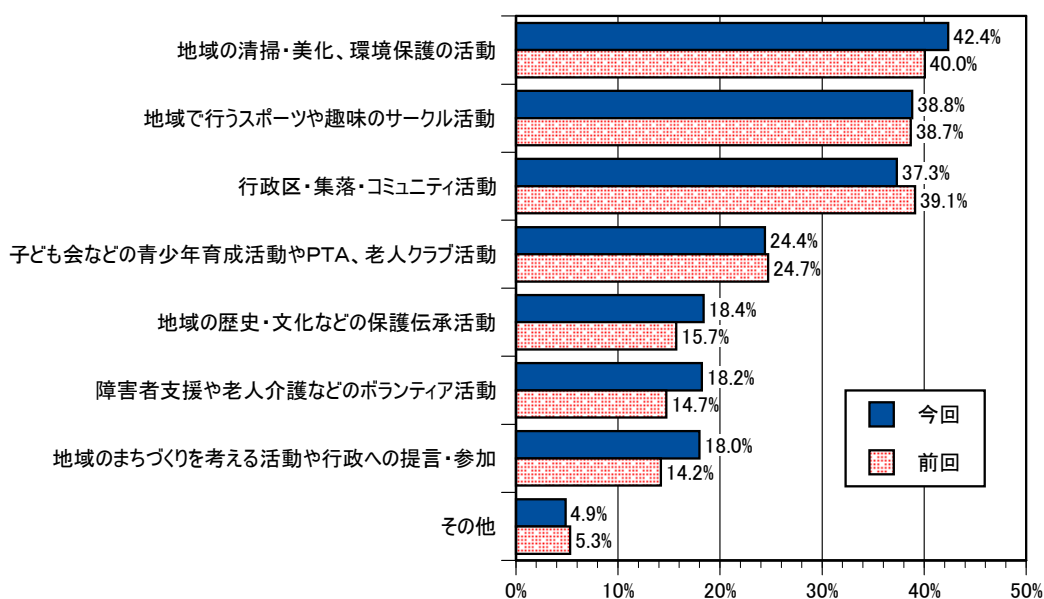


図 29 参加・協力したい住民自治活動

【地区別】

新城地区：市平均と比べて「地域の清掃・美化、環境保護の活動」との回答がやや少ないが、全体的な傾向は大差がない。

鳳来地区：「地域の清掃・美化、環境保護の活動」との回答が市平均に比べてやや多く、「子ども会などの青少年育成活動やPTA、老人クラブ活動」への参加希望がやや少ない。

作手地区：「地域の清掃・美化、環境保護の活動」が59.6%と、他地区に比べて際だって多い。また、「行政区・集落・コミュニティ活動」への参加希望も50.3%と他地区に比べてかなり高くなっており、地縁組織で取り組む活動への参加希望が多いと言える。

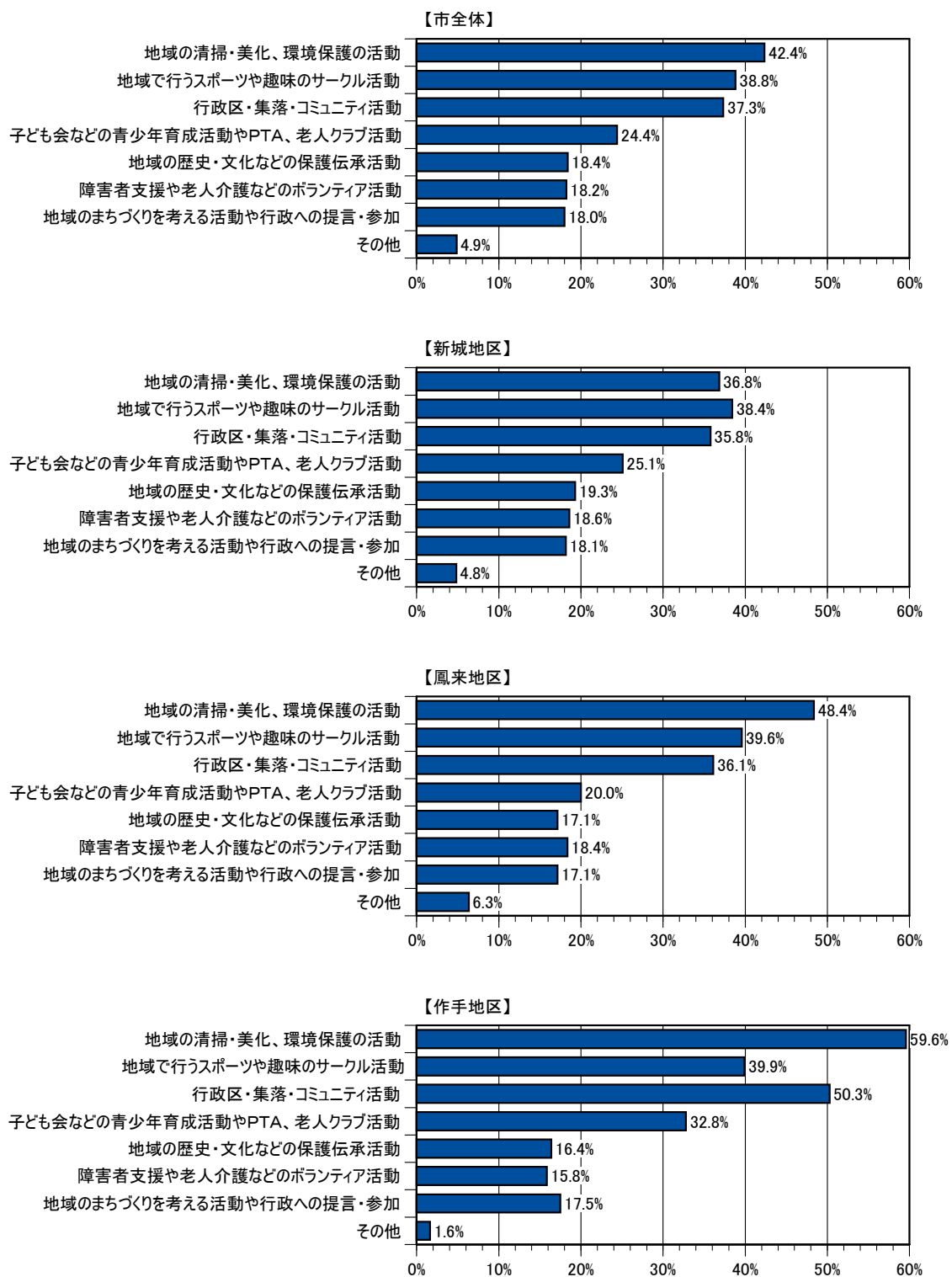


図 30 参加・協力したい住民自治活動（地区別）

【年代別】

若い世代では、「地域で行うスポーツや趣味のサークル活動」への参加希望が多い。また、30～39歳の小中学生を持つ世帯が多い年齢層では、「子ども会などの青少年育成活動やPTA、老人クラブ活動」との回答が多くなっている。年配の世代では、「地域の清掃・美化、環境保護の活動」や「行政区・集落・コミュニティ活動」への参加希望が特に多く見られる。

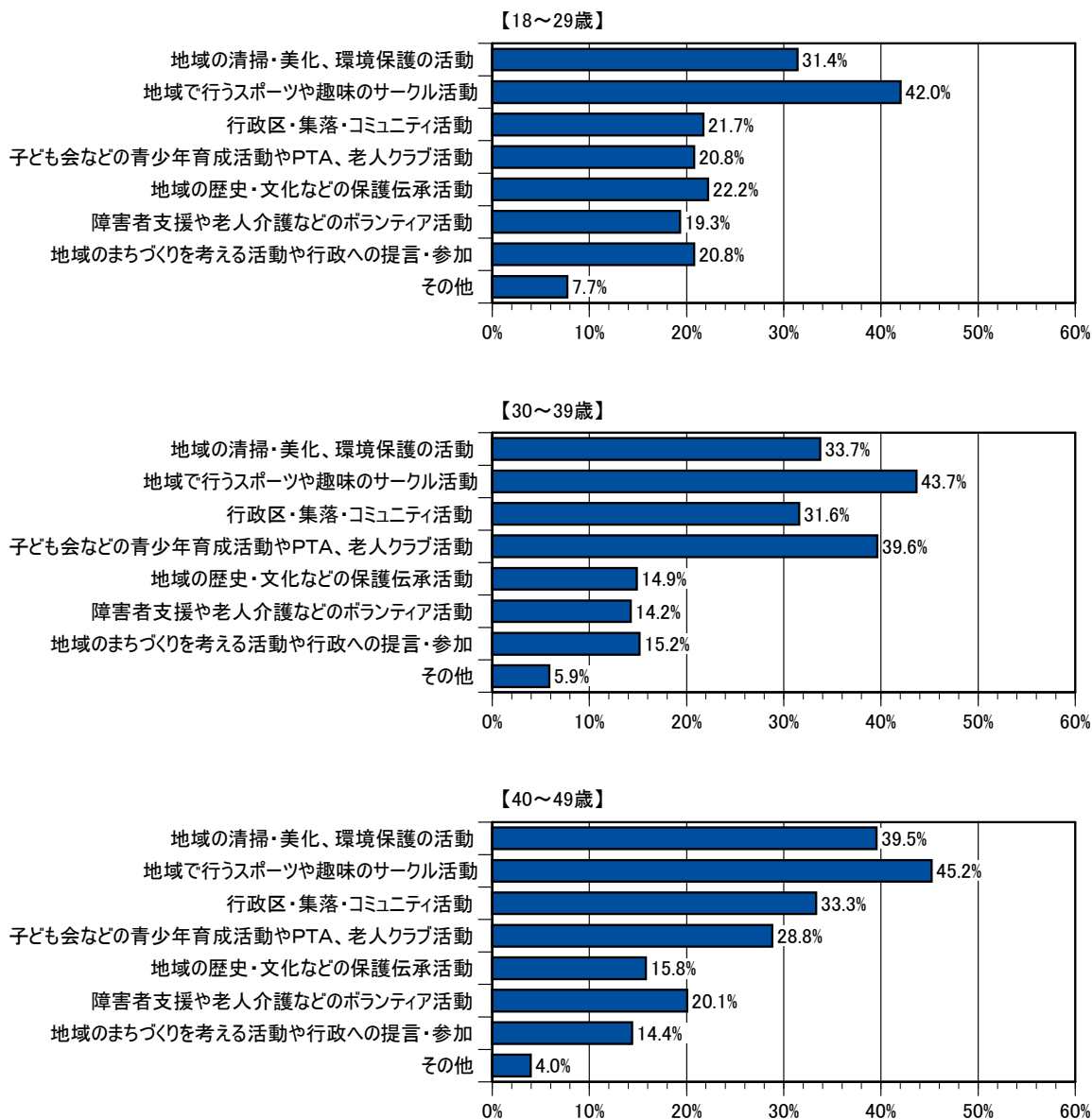


図 31 参加・協力したい住民自治活動（年代別）

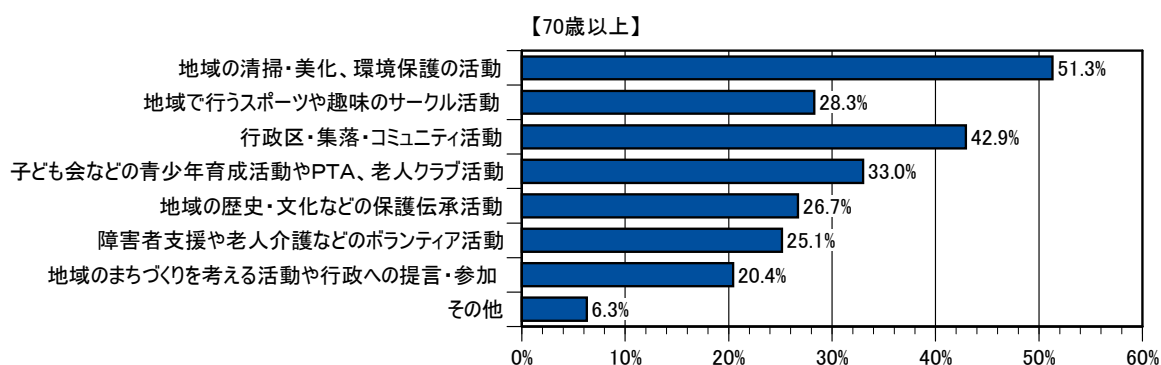
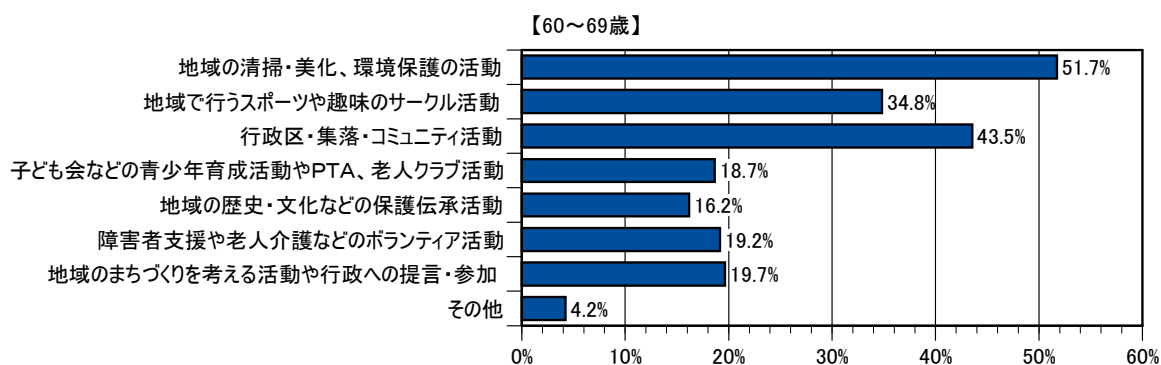
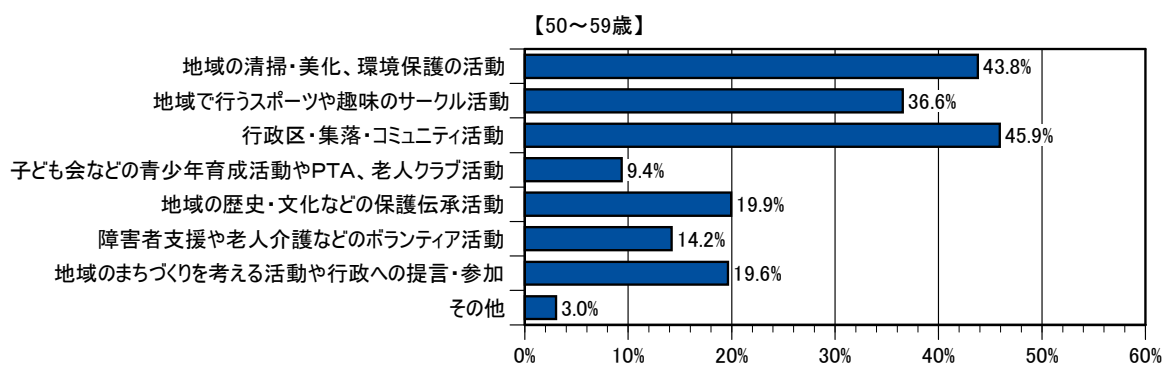


図 31 参加・協力したい住民自治活動（年代別）

問 12 住民自治活動への参加状況

（市民自治社会の実現には、地域や市民自身が地域の課題や市民ニーズに的確に対応し、主体的にその解決を進める「地域力」が必要となります。あなたは、地域力を高める住民自治活動へ参加していますか。1つだけ○印をつけてください。）

「積極的に参加している」（5.2%）と「できるだけ参加している」（30.8%）を合わせて参加している人は36.0%である。一方、参加したいという希望はあるものの、「参加したいがきっかけがない」、「参加したいが時間がとれない」、「参加したいが、健康面の問題で参加していない」などの理由で参加していない人は合わせて39.6%を占めている。

また、「興味がないので、参加していない」と回答した人も21.9%に達している。

【前回調査結果との比較】

実際に活動へ参加している人が減少し、参加を希望するものの何らかの理由により参加できない人が増加した。住民自治活動を活発化させるには、参加を希望する層をいかに取り込むかが重要となるため、今後、問 12-2 や問 12-3 の結果を参考に、希望者が参加しやすい仕組みづくりを検討する必要がある。また、「興味がないので参加していない」も微増しており、住民自治活動への参加に対する啓発などの取組も重要である。

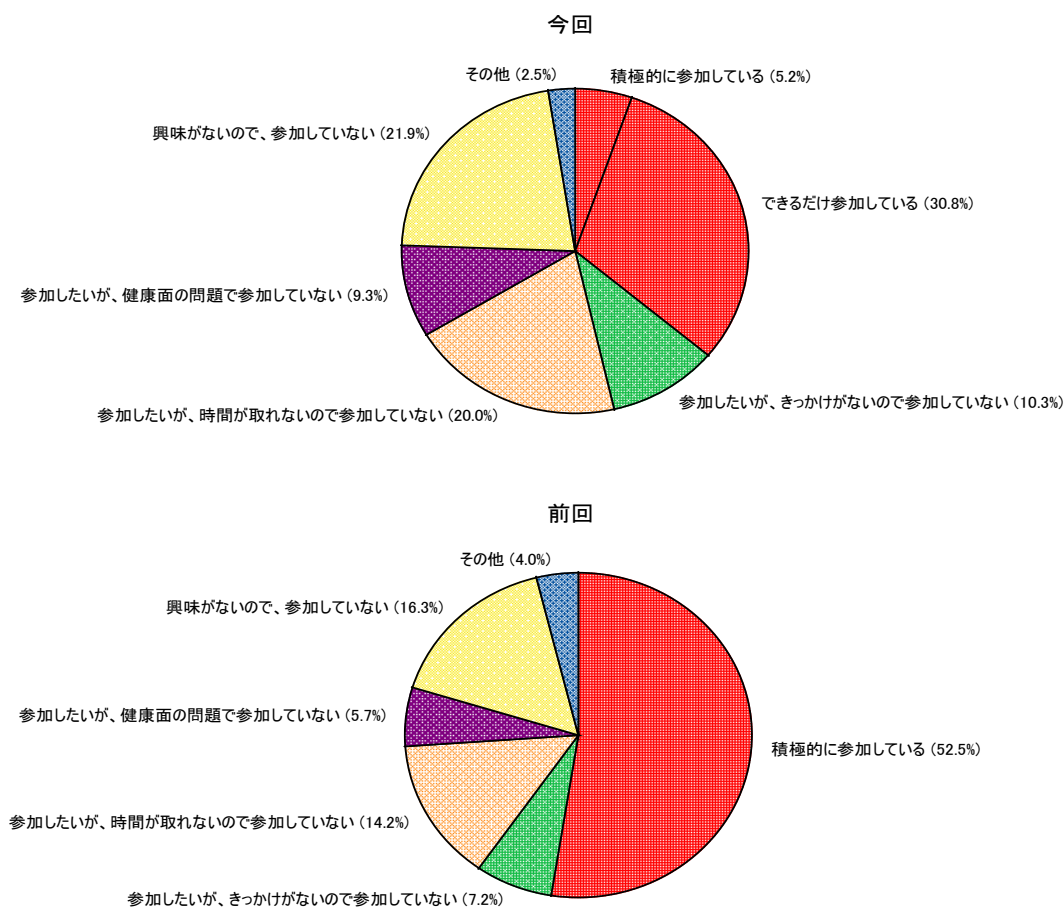


図 32 住民自治活動への参加状況（前回との比較）

【地区別】

新城地区：参加率が 33.2%であり、3 地区の中で最も低い。

鳳来地区：参加率が 37.5%であり、市平均に比較してやや高い。ただし、「興味がないので、参加していない」との回答も 23.9%と多い。

作手地区：参加率が 52.0%であり、参加状況が他地区に比べ突出している。

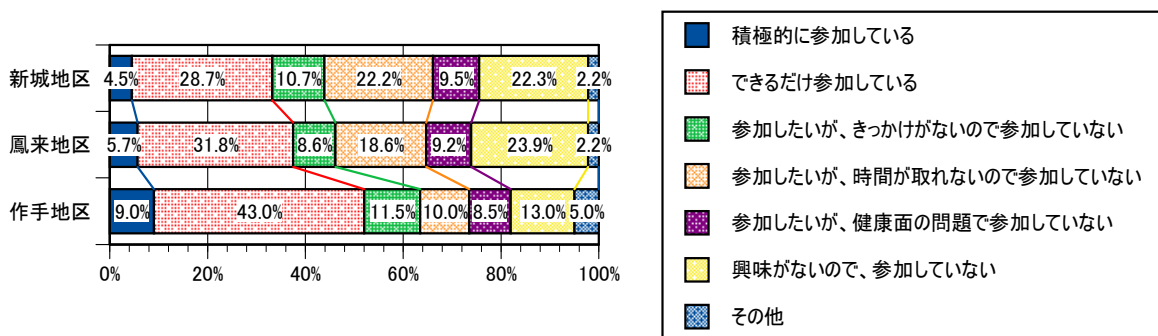


図 33 住民自治活動への参加状況（地区別）

【年代別】

若い世代では参加率が低く、18～29 歳では、「積極的に参加している」「できるだけ参加している」を合わせて 13.3%に留まる。特に「興味がないので参加していない」との回答が 41.7%に達しており、住民自治活動への参加に消極的な人が多い。しかし、前回調査では「興味がないので参加していない」の回答は 55.8%であり、今回 14.1 ポイントの低下が見られ、参加意欲はあるが参加していない層の増加につながっている。こうした「参加したいが」という層をいかに取り込んでいくかが今後の課題となる。

参加率は年齢の上昇に伴って上昇し、50～60 歳代でピークに達するが、70 歳以上になると「参加したいが、健康面の問題で参加していない」との回答が急激に上昇し、参加率が低下する。

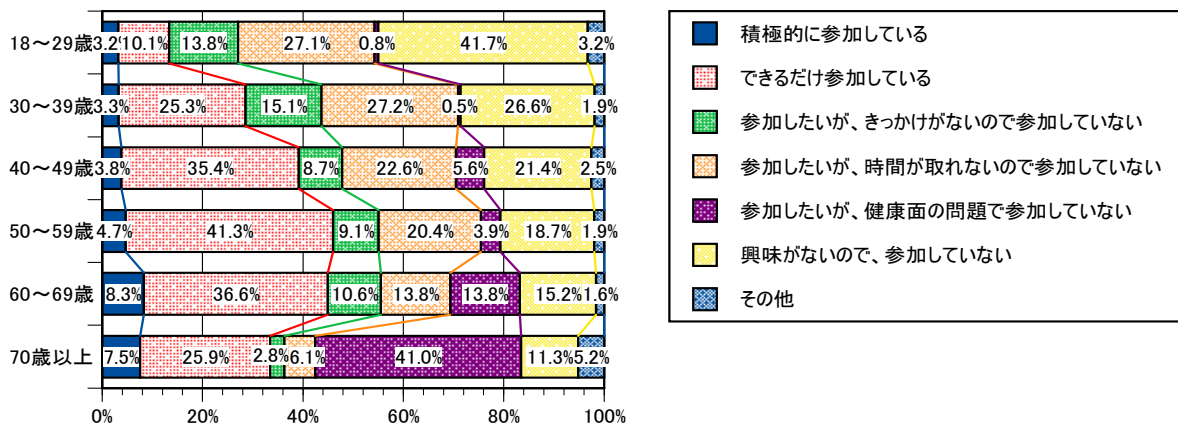


図 34 住民自治活動への参加状況（年代別）

問 12-2 住民自治活動への参加に必要なきっかけ

(問 1 2 で 3 を選択された方にお聞きします。どのようなきっかけがあれば参加できると思われますか。1つだけ○印をつけてください。)

問 12 にて「参加したいが、きっかけがないので参加していない」と回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば参加できるか尋ねた問いに対しては、「チラシによる活動状況の情報提供」を挙げた人が 45.1% で最も多い。

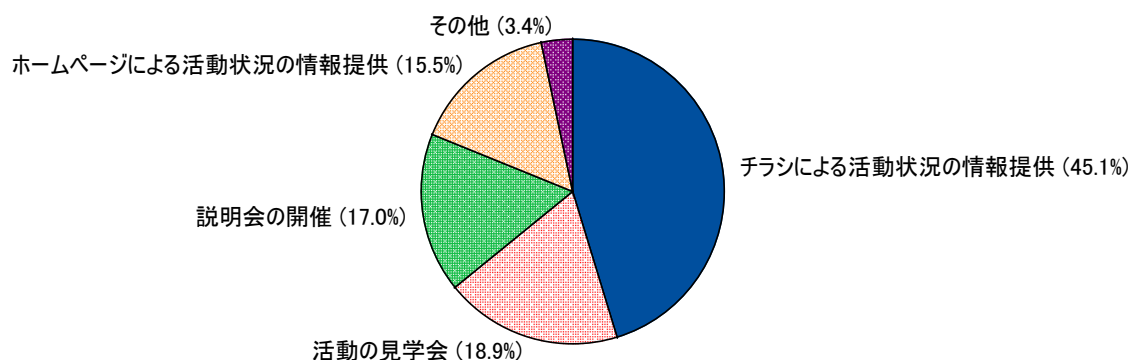


図 35 住民自治活動への参加に必要なきっかけ

問 12-3 住民自治活動に時間が取れない理由

(問 1 2 で 4 を選択された方にお聞きします。時間が取れない主な理由を教えてください。)

問 12 にて「参加したいが、時間が取れないので参加していない」と回答した人に対して、時間がとれない理由を尋ねた結果、「仕事が忙しく参加できない」との回答が 59.7% で最も多い。こうした層が住民自治活動に参加できる仕組みづくりが求められる。

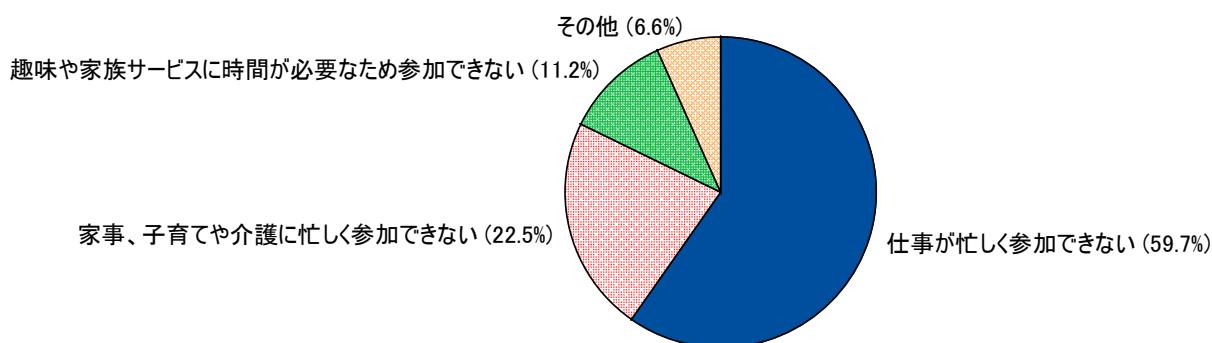


図 36 住民自治活動に時間が取れない理由

問 13 有効と思われる少子化対策

(この地域の少子化対策に有効と思われるものを3つまで○印をつけてください。)

「病院、診療所の充実」を挙げた人が74.3%で最も高く、次いで、「若者の定住のための就職支援」が58.3%、「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢の引き上げなどの経済的支援」が32.7%となっている。問10で前述したように医療サービス体制に対する不満は非常に大きく、少子化を加速させる要因にもなっていると考えている人が多いといえる。また、定住意向で述べたように、移住したいと回答した人の中には「この地域に魅力的な働く場がないから」と回答した人が多いことから、特に若年世代の流出を防ぐために就職支援が必要と判断している人が多いと考えられる。

【前回調査結果との比較】

「病院、診療所の充実」との回答が最も多く、次いで「若者の定住のための就職支援」との回答が多い状況は前回と変わらないが、「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢の引き上げなどの経済的支援」については、前回に比べて9.5ポイント低下している。政権交代により、15歳以下の子供のいる家庭に対して子ども手当が支給されるようになったことが関係している可能性がある。

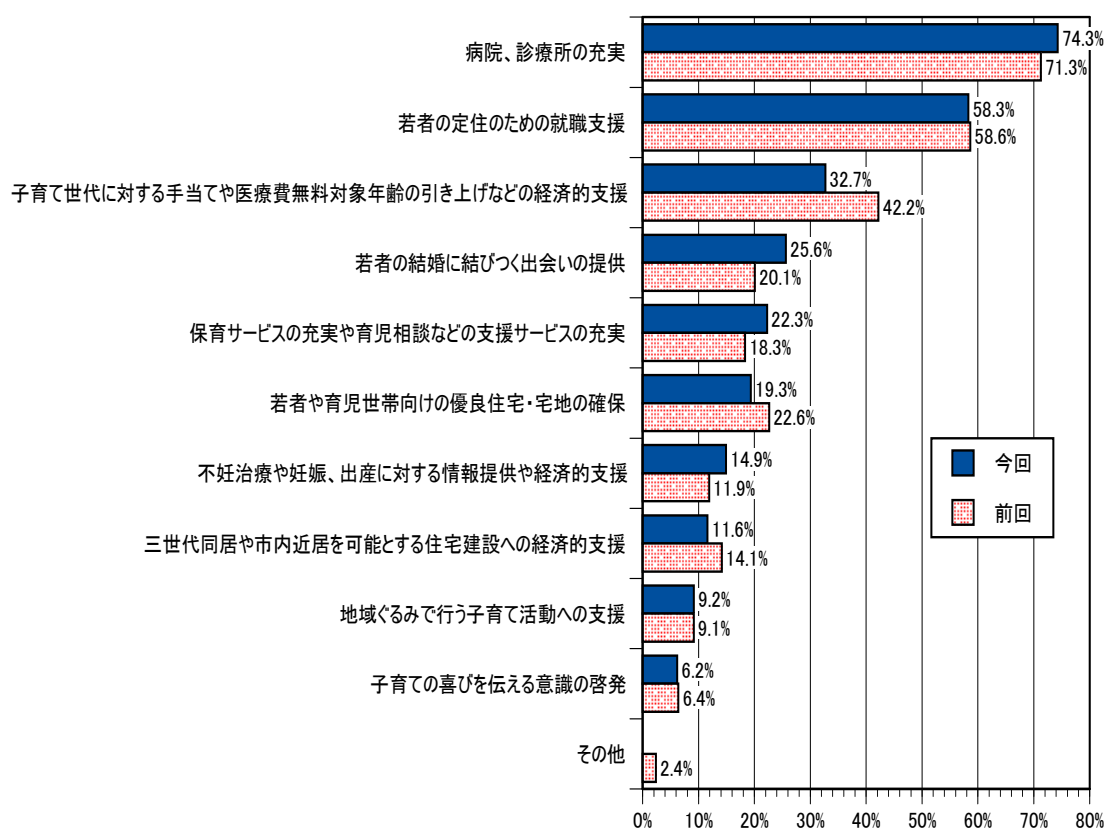


図 37 有効と思われる少子化対策

【地区別】

新城地区：「病院、診療所の充実」を挙げた人が 78.0%と特に多い。また、「保育サービスの充実や育児相談などの支援サービスの充実」との回答が他地区に比べて多い。

鳳来地区：新城地区に比較して、「若者の定住のための就職支援」や「若者の結婚に結びつく出会いの提供」を挙げた人が多い。

作手地区：「若者や育児世帯向けの優良住宅・宅地の確保」や「三世代同居や市内近居を可能とする住宅建設への経済的支援」との回答が他地区に比べて高いが、旧作手村時代に実施した、定住促進に向けた住宅・宅地の整備する施策を評価している人が多いためと考えられる。

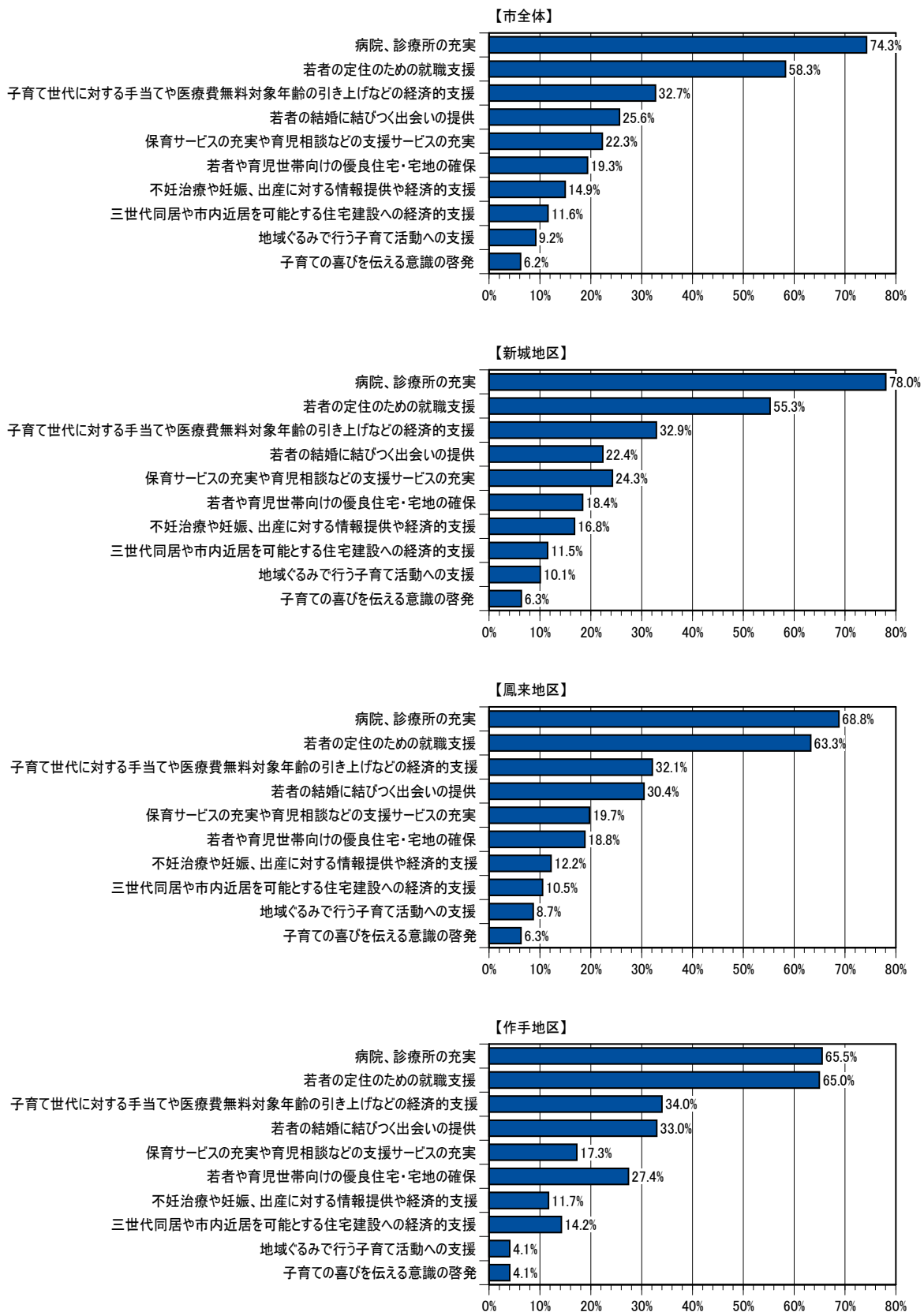


図 38 有効と思われる少子化対策（地区別）

【年代別】

若い世代では「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢の引き上げなどの経済的支援」「若者や育児世帯向けの優良住宅・宅地の確保」「不妊治療や妊娠、出産に対する情報提供や経済的支援」「保育サービスの充実や育児相談などの支援サービスの充実」との回答が他の年齢層に比べて多い。高齢の世代では、「若者の結婚に結びつく出会いの提供」を挙げた人が若い世代に比べて多い。

なお、「若者の結婚に結びつく出会いの提供」は高齢になるほど必要と感じる人が増加し、「不妊治療や妊娠、出産に対する情報提供や経済的支援」については高齢になるに従い必要と感じる人が減少している。結婚や出産に関する考え方について世代間の違いが見られ、少子化対策の実効性を高めるためには、この違いに着目する必要があると考えられる。

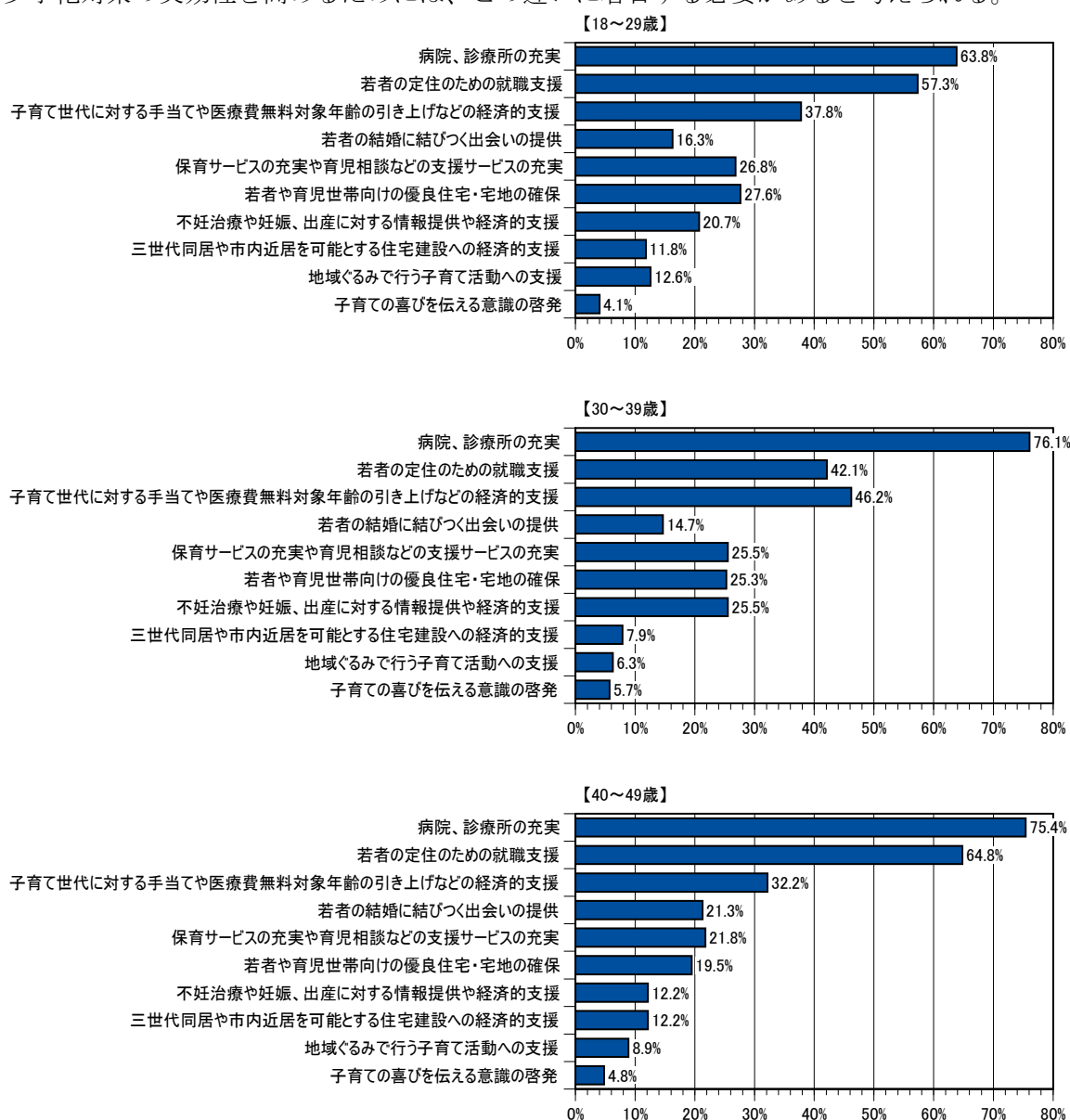


図 39 有効と思われる少子化対策（年代別）

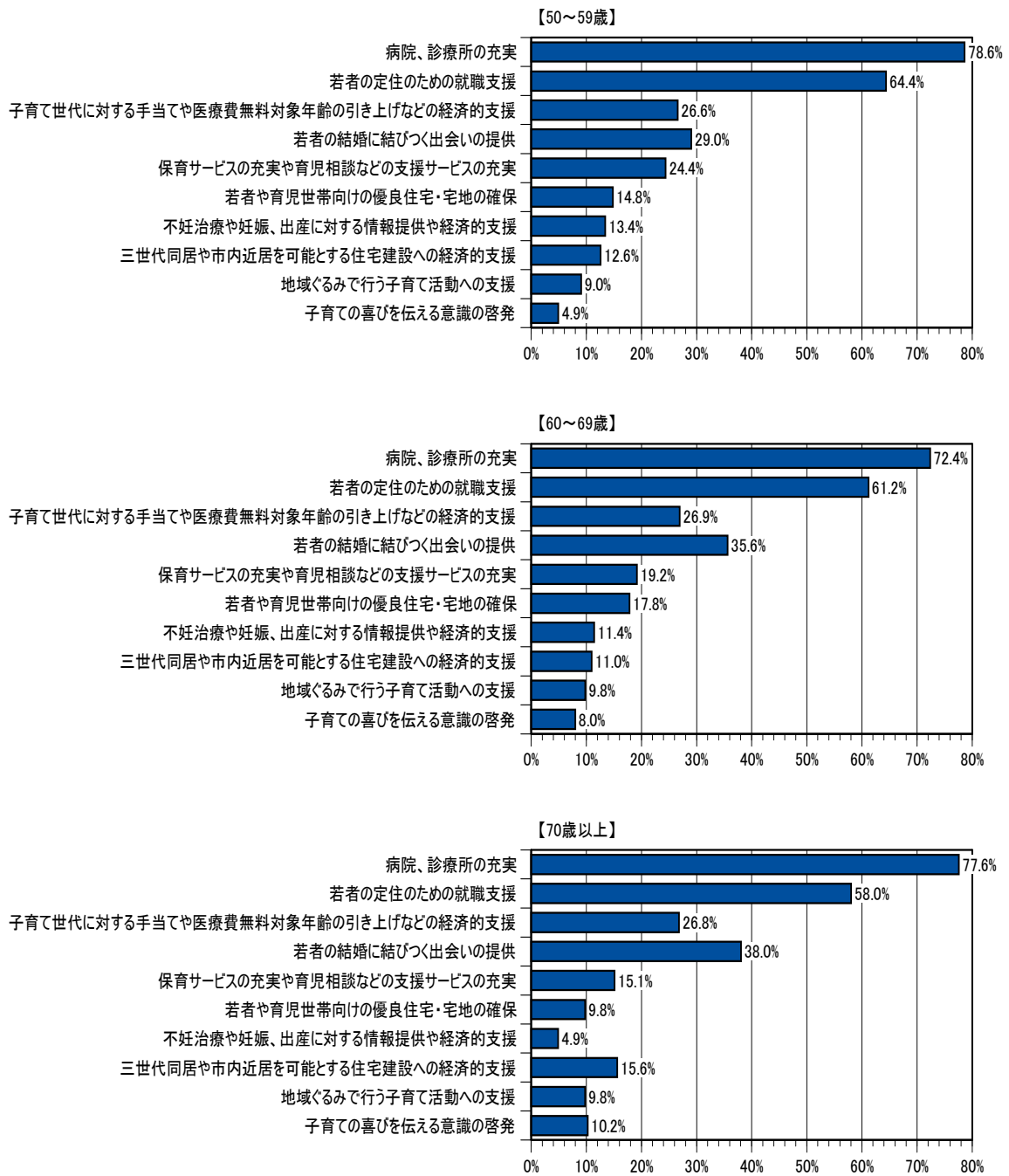


図 39 有効と思われる少子化対策（年代別）

問 14 将来不安要因

(あなたは将来に対して、何に不安を感じますか。3つまで○印をつけてください。)

「医療・福祉サービスの低下」が67.2%で最も高く、次いで、「少子高齢化の進行」44.5%、「地域の過疎化」40.5%となっている。さらなる少子高齢化と地域の過疎化や医療・福祉サービスをはじめとする日常生活サービスの水準が低下することを心配している人が多いと考えられる。

【前回調査結果との比較】

「家計の困窮」「就業機会の減少」「公共交通サービスの低下」が大きく上昇した。一方、「医療・福祉サービスの低下」、「犯罪の増加」、「自然環境の悪化」などの不安は減少した。

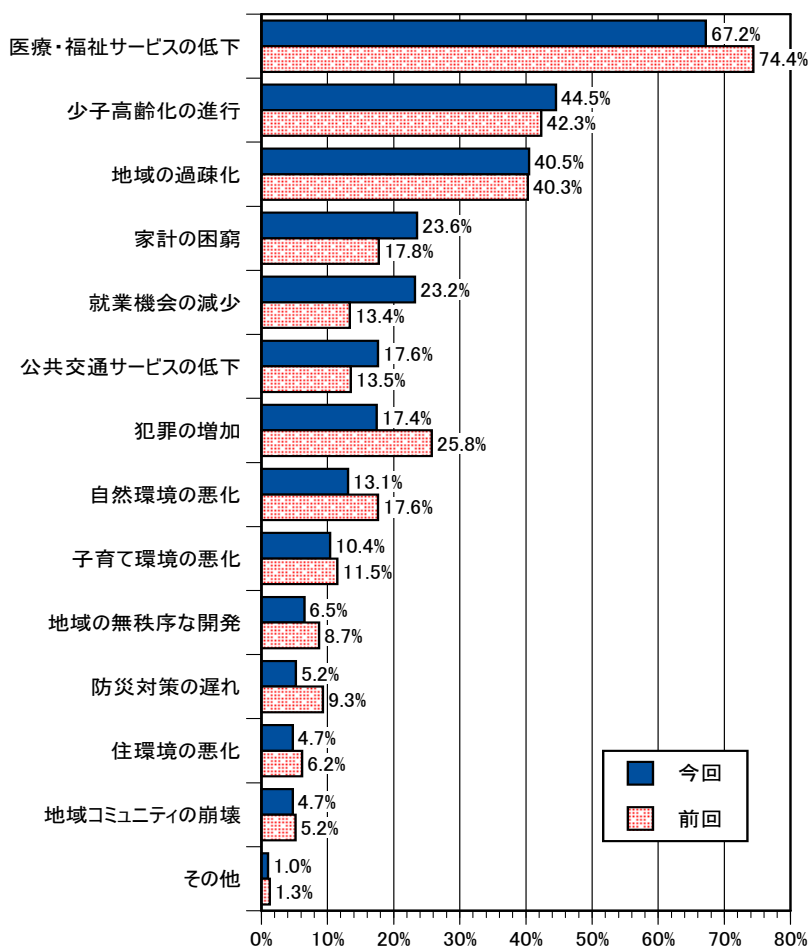


図 40 将来不安要因

【地区別】

新城地区：「医療・福祉サービスの低下」との回答が他地区に比べて多い。また、「犯罪の増加」との回答も他地区に比べて多い。

鳳来地区：市平均と比較して、「地域の過疎化」との回答が多い。また、「公共交通サービスの低下」との回答も他地区に比べて多い。

作手地区：「地域の過疎化」との回答が 63.2%と 3 地区の中で最も高い。

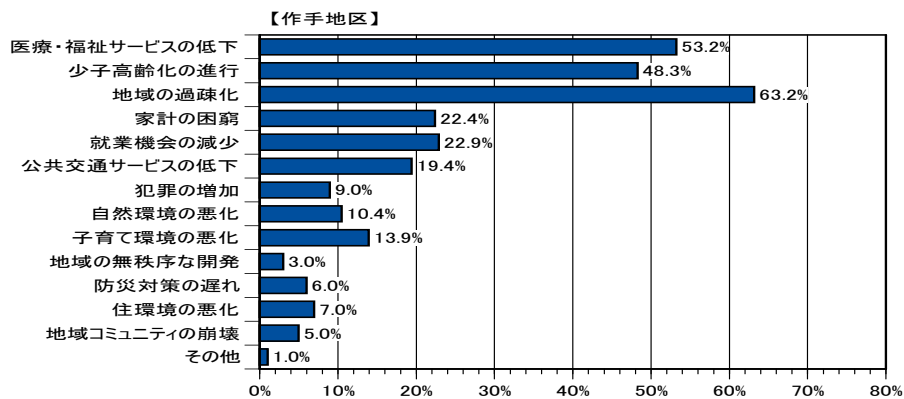
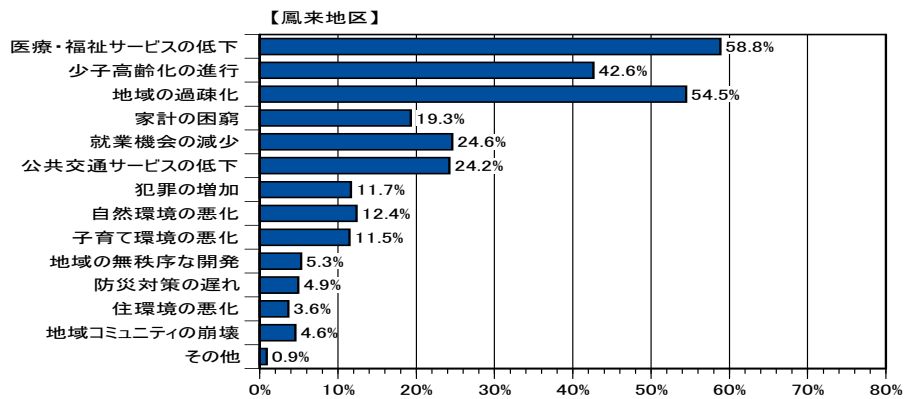
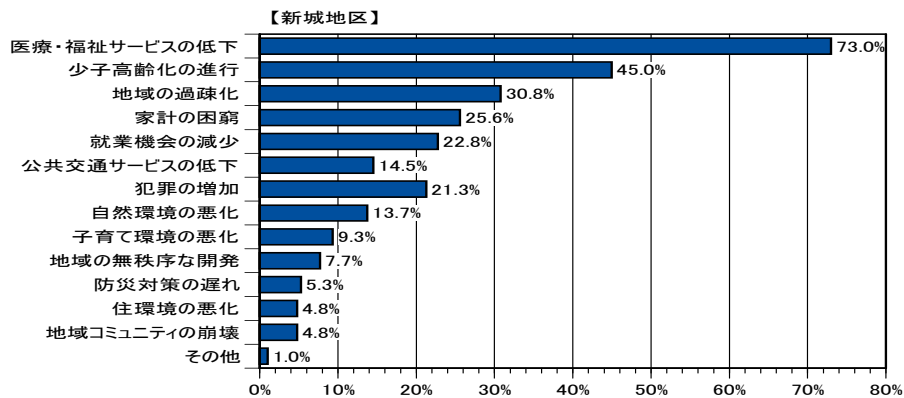
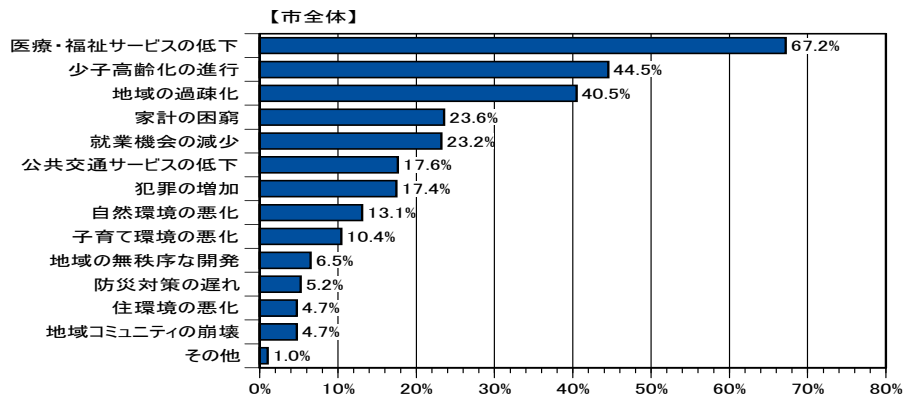


図 41 将来不安要因（地区別）

【年代別】

どの世代においても共通して「医療福祉サービスの低下」をあげる人が多い中、若い世代では、「就業機会の減少」や「子育て環境の悪化」をあげる人が他の年齢層に比較して多い。年配の世代では、「少子高齢化の進行」をあげる人が多い。また、「公共交通サービスの低下」との回答が70歳以上で多い。

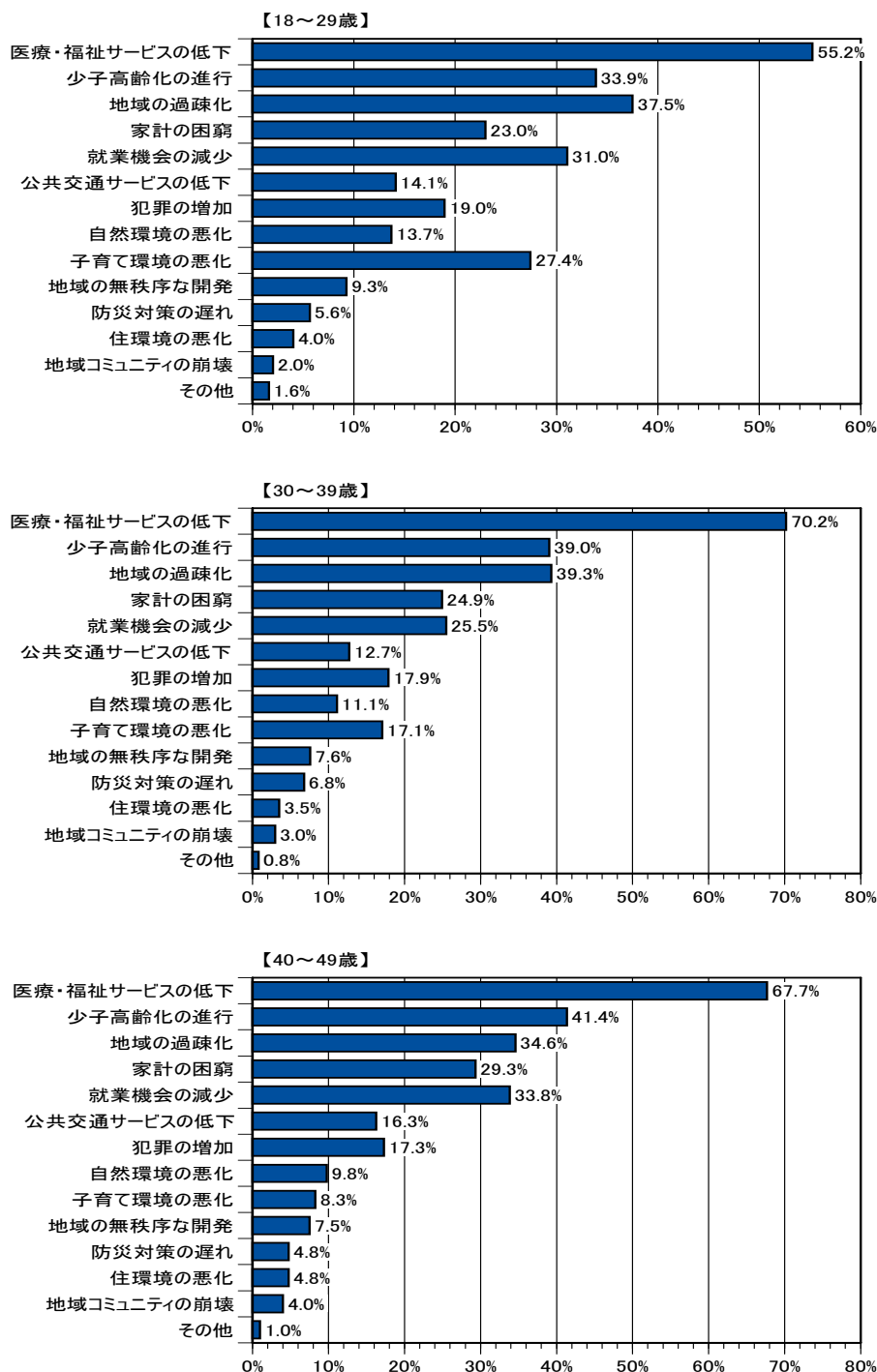


図 42 将来不安要因（年代別）

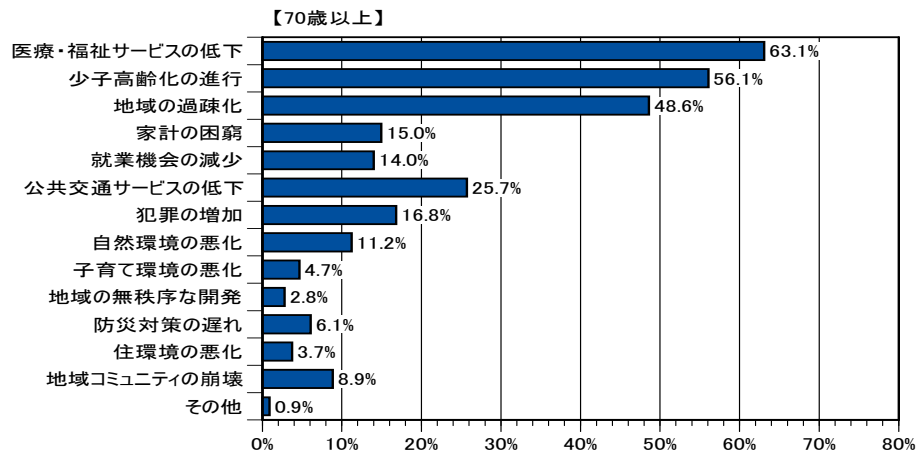
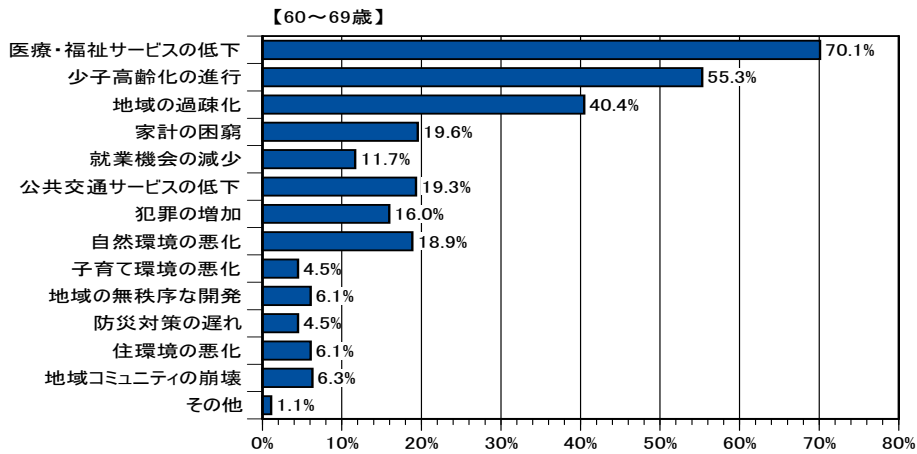
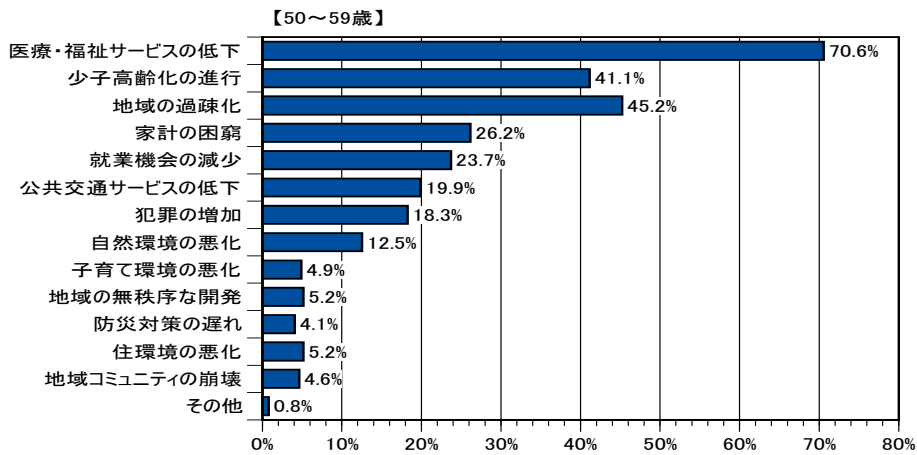


図 42 将来不安要因（年代別）

問 15 公共サービスと住民負担の関係

(公共サービスと住民の負担について、どのように思われますか。1つだけ○印をつけてください。)

「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない。」との回答が 51.5%と最も多い。「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない。」との回答も 26.6%あったことから、厳しい財政状況とさらなる人口減少が予想される中で、今後、公共サービスの住民負担が増えることもやむを得ないと考えている人が非常に多い。

【前回調査結果との比較】

前回調査は『費用負担』、今回の調査は『住民負担』と質問項目が変化している点があるので、単純比較はできない。前回調査の単なる『費用負担』から『住民によるサービス提供も含めた『住民負担』に質問が変化した事により、「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増える事もやむを得ない」が大幅に上昇している。

これは、公共サービスの提供は行政だけではなく、自分達でやれる範囲の事は自分達で負担するという、新たな考え方が広がったためと考えられる。

また、「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない。」との回答は 51.5%に低下したものの半数以上を占めており、依然として応益負担の考え方を持つ人が多いといえる。

なお、地区別で比較すると、費用負担の増加について質問した前回は全ての地区について 10%程度で違いが見られなかったものの、「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増える事もやむを得ない」の質問に対しては、住民自治活動参加率が高い地区ほど高くなる傾向が見られる。

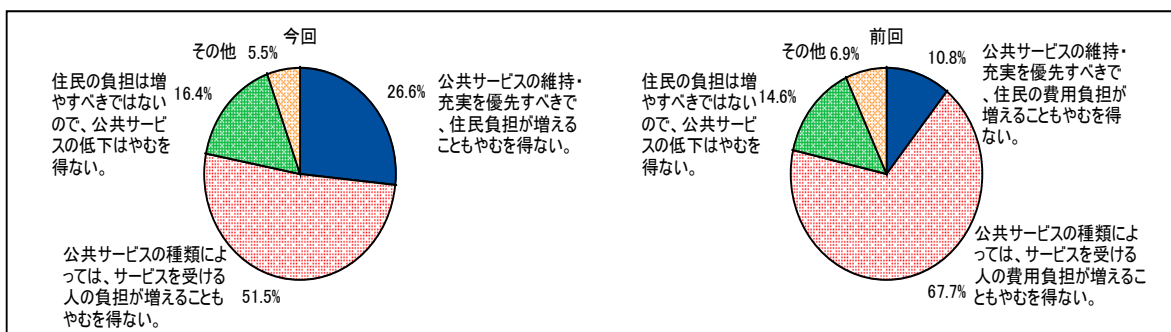


図 43 公共サービスと住民負担の関係

【地区別】

新城地区：「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない。」との回答が他地区に比べて多い。

鳳来地区：「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない。」との回答が市平均に比べて多い。

作手地区：「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない。」との回答が3地区の中で最も多い。

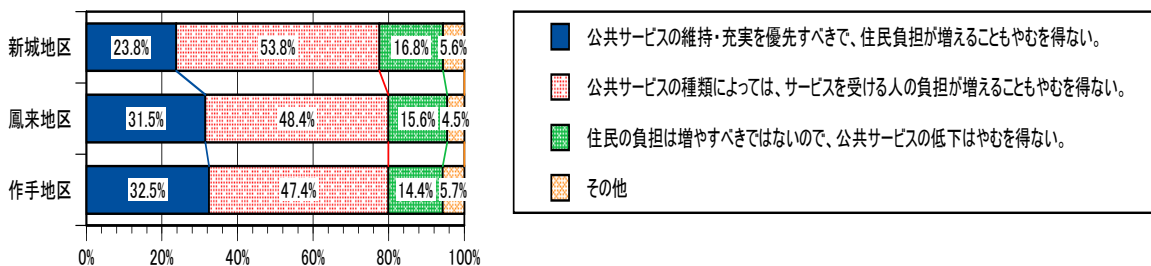


図 44 公共サービスと住民負担の関係（地区別）

【年代別】

より高齢になるほど「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない。」との回答が増加する一方で、「住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない。」との回答も増加している。

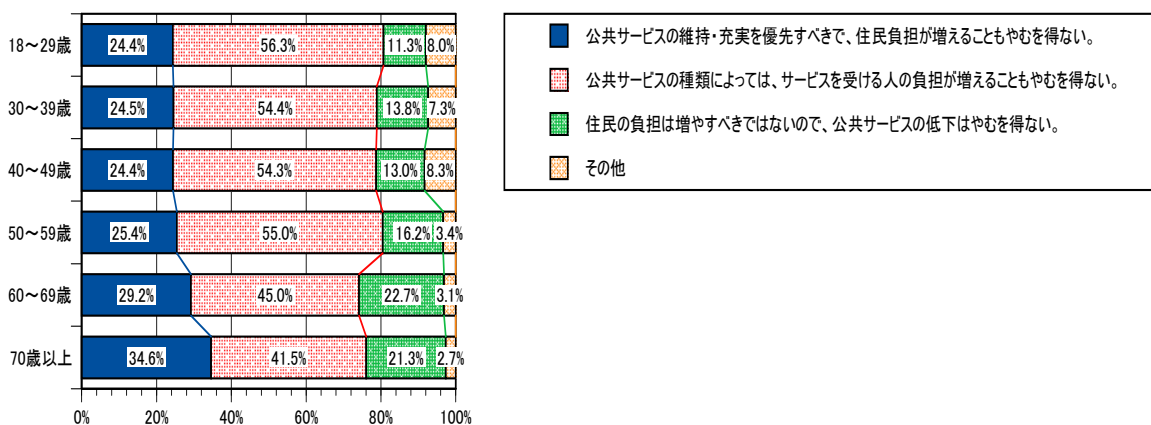


図 45 公共サービスと住民負担の関係（年代別）

問 15-2 負担の増加またはサービスの低下がやむを得ない公共サービス

問 15 で「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない。」と回答した人に対して、負担増がやむを得ない分野について尋ねた結果、「福祉・健康分野」との回答が 41.5%で最も多い。

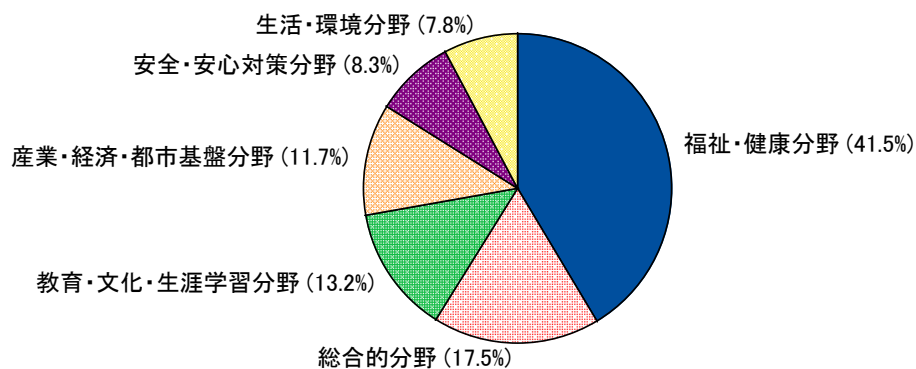


図 46 負担の増加がやむを得ない公共サービス

一方、問 15 で「住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない。」と回答した人に対してサービス低下がやむを得ない分野について尋ねた結果では、「総合的分野」との回答が 39.1%で最も多い。総合的分野については問 8 で具体的な項目を挙げているが、住民自治や住民参加などの項目が含まれていることから、選択されたと考えられる。

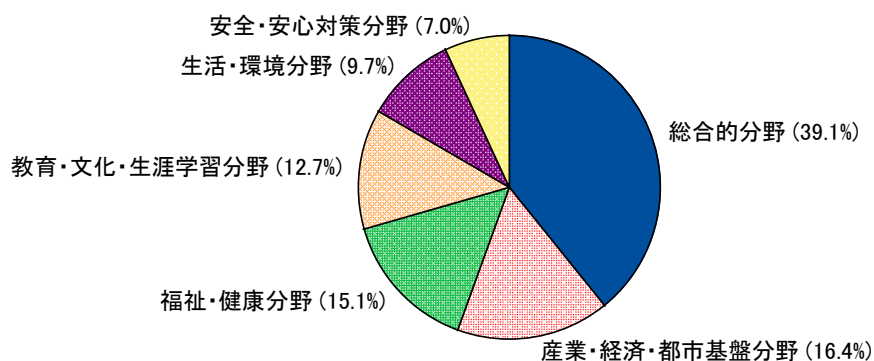


図 47 サービスの低下がやむを得ない公共サービス

問 16 希望する新都市の将来像

(新都市が将来どのようなまちになったらよいと思われますか。3つまで○印をつけてください。)

「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」が66.4%で最も多いが、この結果は医療や福祉に対する将来的不安を反映した結果と考えられる。また、「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」も53.4%と多いが、新都市の自然に恵まれた環境を後世にも引き継いでいきたいとの気持ちが表れた結果と考えられる。

【前回調査結果との比較】

「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」が最も多い状況に変化はない。次いで、「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」が多い状況も同じだが、その回答率は62.6%から53.4%へと9.2ポイント低下している。一方、「地域の自然特性などを活かし、多くの人々が行き交う観光のまち」が4.4ポイント、「地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち」が3.2ポイント上昇していることから単に自然を守ってだけでなく、自然をはじめとする地域資源や地域特性を活用する方向を志向する人が増えてきている。

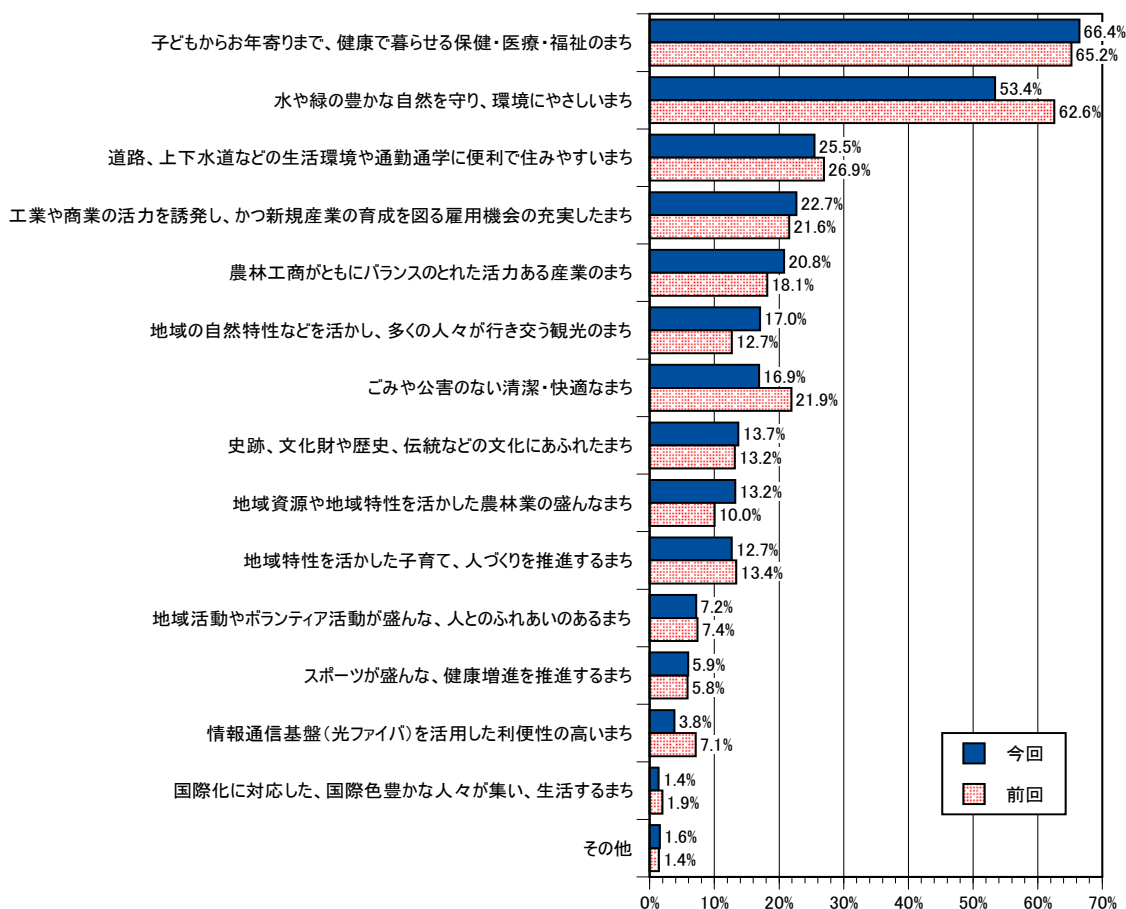


図 48 希望する新都市の将来像

【地区別】

新城地区：市平均と比べて大きな差異は見られず、「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保険・医療・福祉のまち」と「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」が他の項目に比べて多い。

鳳来地区：「道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち」との回答が他地区に比べて多い。地区の面積が広く、集落が点在している中で、特に道路整備や公共交通について問題を感じている人が多いためと推測される。また、「史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち」との回答も他地区に比べて多い。長篠の戦いの舞台となった歴史を持ち、はねこみなどの無形文化財を文化的価値として評価しているためと考えられる。

作手地区：「地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち」との回答が他地区に比べて多い。高原性気候を活かした酪農、鉢花など、地域資源や地域特性を活かした取組に対する意識が高いためと考えられる。

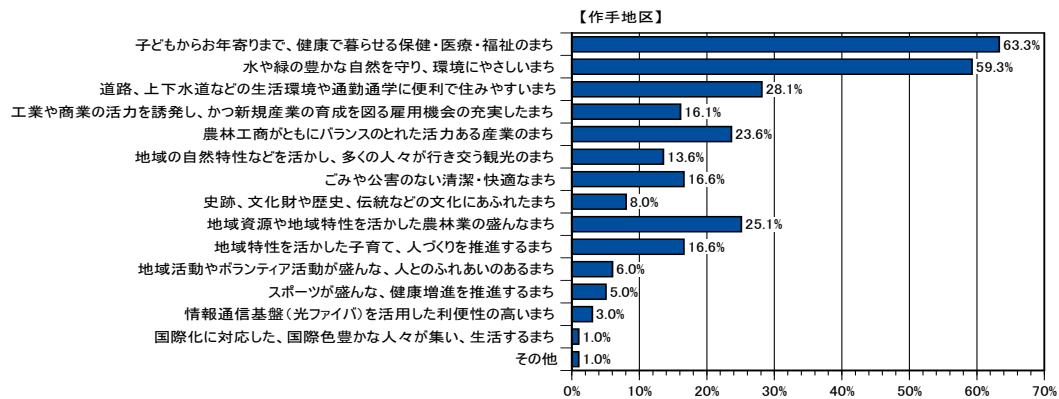
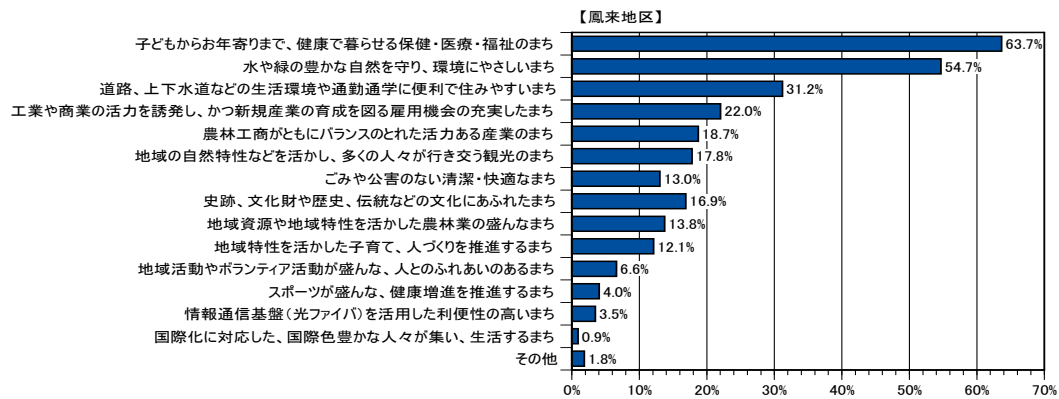
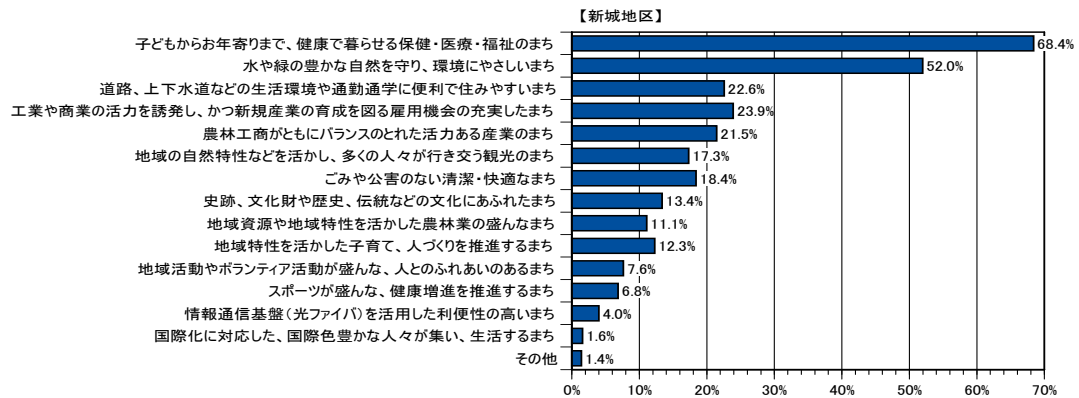
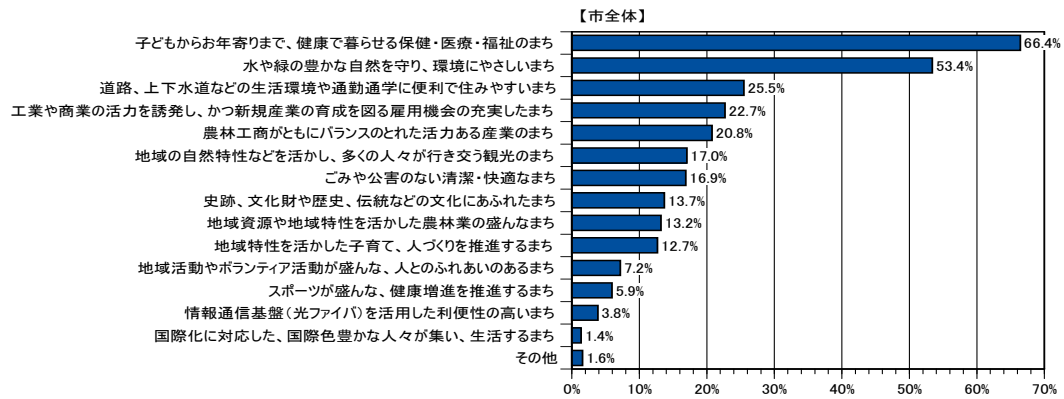


図 49 希望する新都市の将来像（地区別）

【年代別】

年齢による差はあまり見られないが、「地域資源や地域特性を活かした農林業の盛んなまち」との回答が高齢になるほど多くなる傾向が見られる。「地域特性を活かした子育て、人づくりを推進するまち」との回答が若い世代ほど多くなる傾向が見られる。

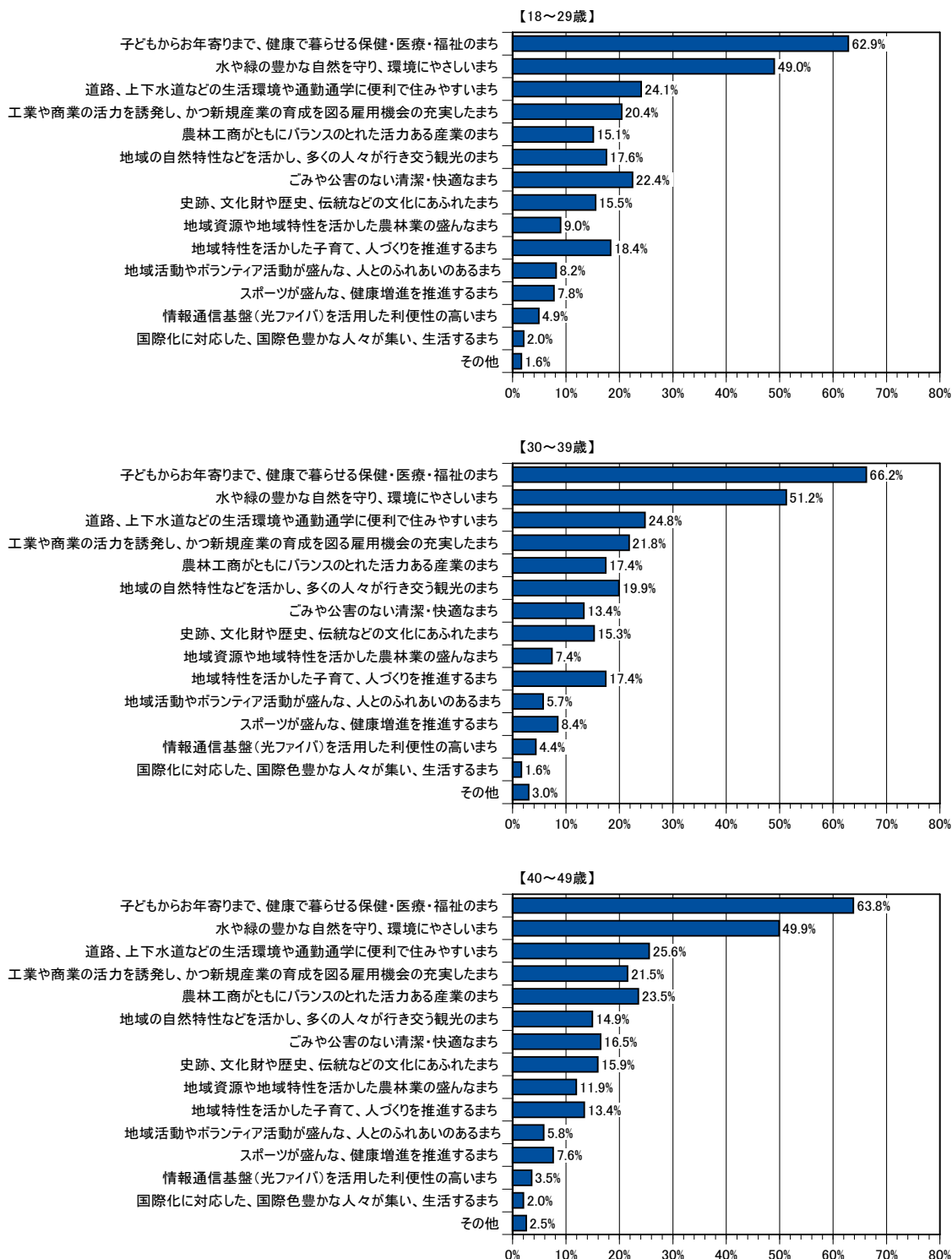


図 50 希望する新都市の将来像（年代別）

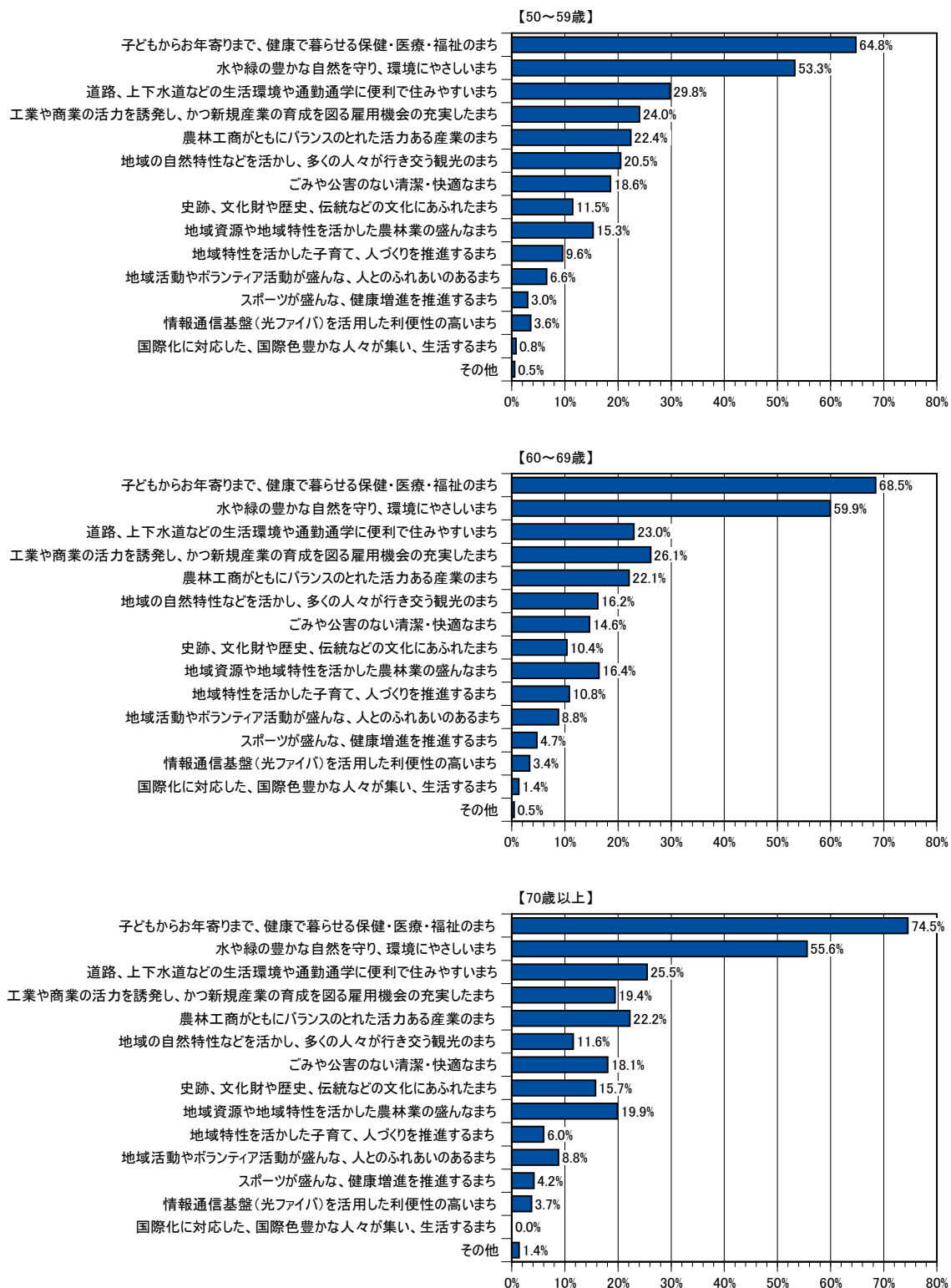


図 50 希望する新都市の将来像（年代別）

問 16-2 利用したい情報サービス

(問 16 で 1 4 を選択された方にお聞きします。身近で利便性を感じられる情報システム (Web サービス) の展開において、利用したいサービスを 3 つまで〇印をつけてください。)

「防災・防犯支援」が 44.0% で最も高く、特に災害情報のような緊急情報の重要性を感じている人が多いと思われる。次いで「介護支援」が 40.0% と多いが、高齢化の進展に伴い介護サービス利用者が増加してきていることも影響していると考えられる。

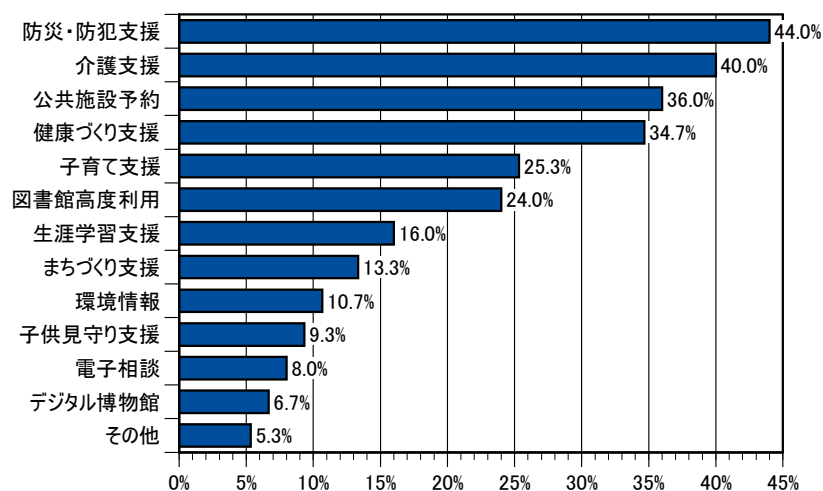


図 51 利用したい情報サービス

問 17 新都市の魅力・PR ポイント

(あなたが、おすすめの新都市の魅力、または、今後の新都市をPRするにあたり効果的だと思われるものを3つまで○印をつけてください。)

新都市の魅力については、「滝や清流、湿原や山などの豊かな自然環境や水、森林、温泉などの豊富な地域資源」を挙げた人が 64.3%で最も多い。次いで、「さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの四季と自然を扱うイベント」が 45.2%であり、豊かな自然とそれを活用したイベントを新都市の魅力と捉えている人が多い。

【前回調査結果との比較】

前回同様、「滝、清流、湿原、山、森林、温泉などの地域資源」との回答が最も多いものの、75.5%から 64.3%へ 11.2 ポイント低下した。一方で、「新東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上」は 35.1%から 39.6%へと 4.5 ポイント上昇しており、道路の開通による新都市の活性化への期待が高まっている。また、「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」との回答も 11.2%から 16.3%へと 5.1 ポイント上昇した。新都市の PR ポイントとして挙げた人の絶対数は少ないが、このようなイベントなどの取り組みを評価する人が徐々に増えてきている可能性がある。

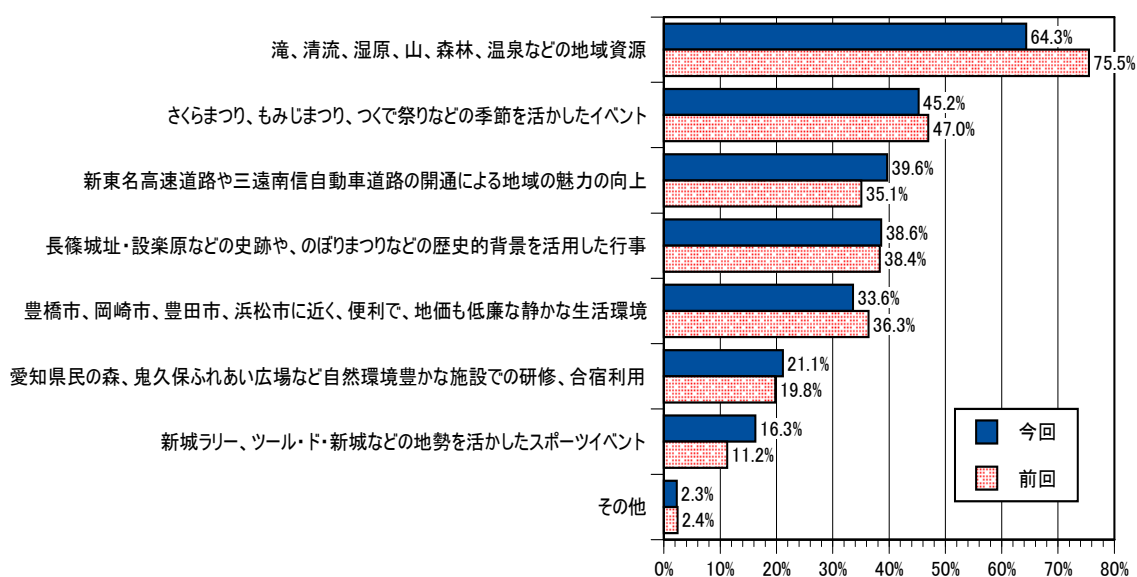


図 52 新都市の魅力・PR ポイント

【地区別】

新城地区：市平均の傾向に似ているが、「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」との回答が他地区に比べてやや多い。

鳳来地区：「長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事」との回答が他地区に比べて多い。また、「新東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上」との回答も他地区に比べて多い。新東名に加えて、地区内に三遠南信自動車道のインターチェンジが開設されることへの期待が大きいと推測される。

作手地区：「豊橋市、岡崎市、豊田市、浜松市に近く、便利で、地価も低廉な静かな生活環境」を挙げた人が他地区に比べて多い。作手地区は岡崎市、豊田市へのアクセスが良く、通勤している人が多いことも回答につながったと考えられる。また、「愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修、合宿利用」との回答も他地区に比べて多いが、地区内にある鬼久保ふれあい広場などを評価している人が多いと推測される。

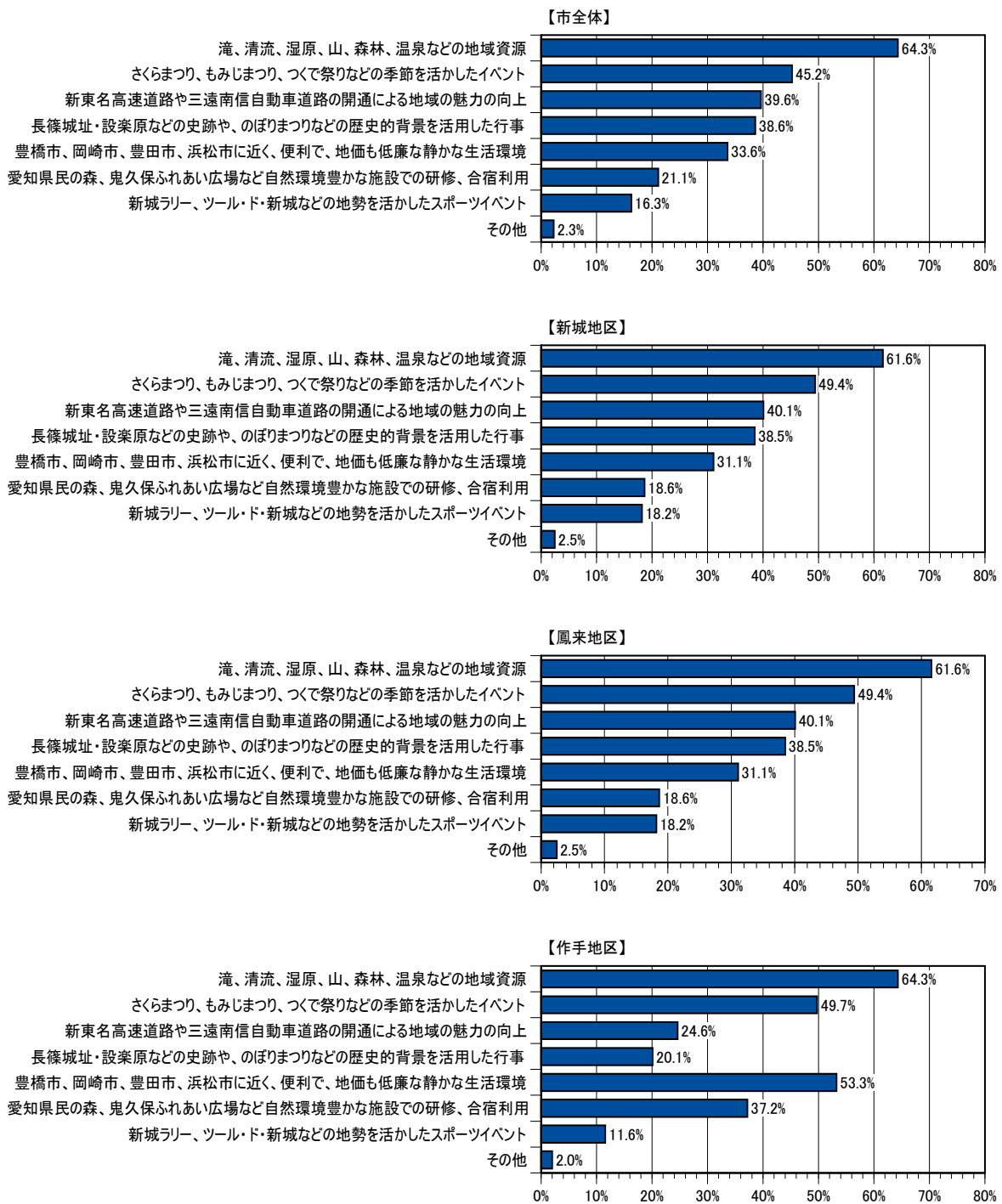


図 53 新城市の魅力・PR ポイント（地区別）

【年代別】

高齢になるほど、「新東名高速道路や三遠南信自動車道路の開通による地域の魅力の向上」を挙げる人が多くなる傾向が見られる。一方で、絶対数としては少ないが、若い世代ほど「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」と回答した者の割合が高くなっている。

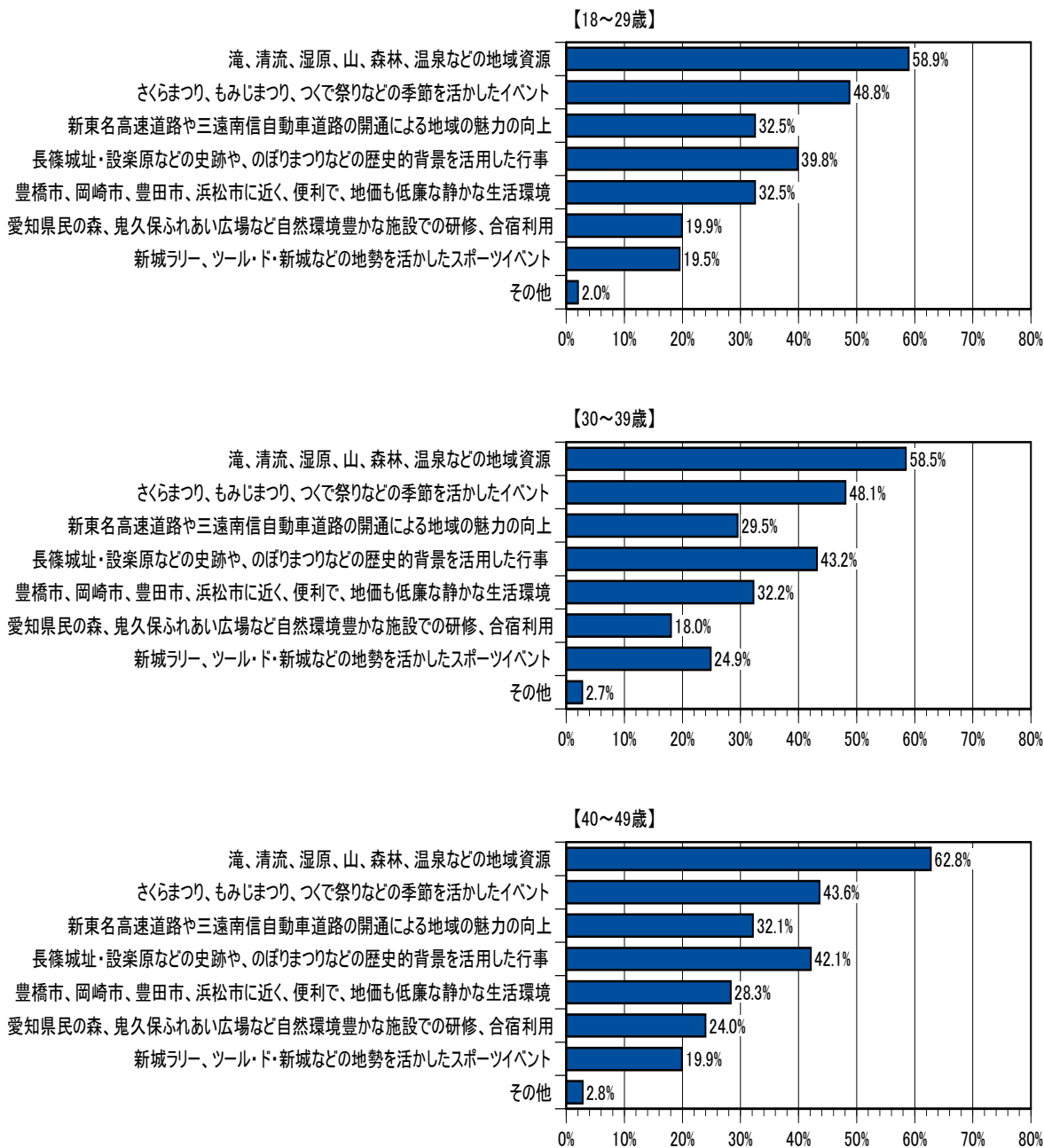


図 54 新都市の魅力・PR ポイント（年代別）

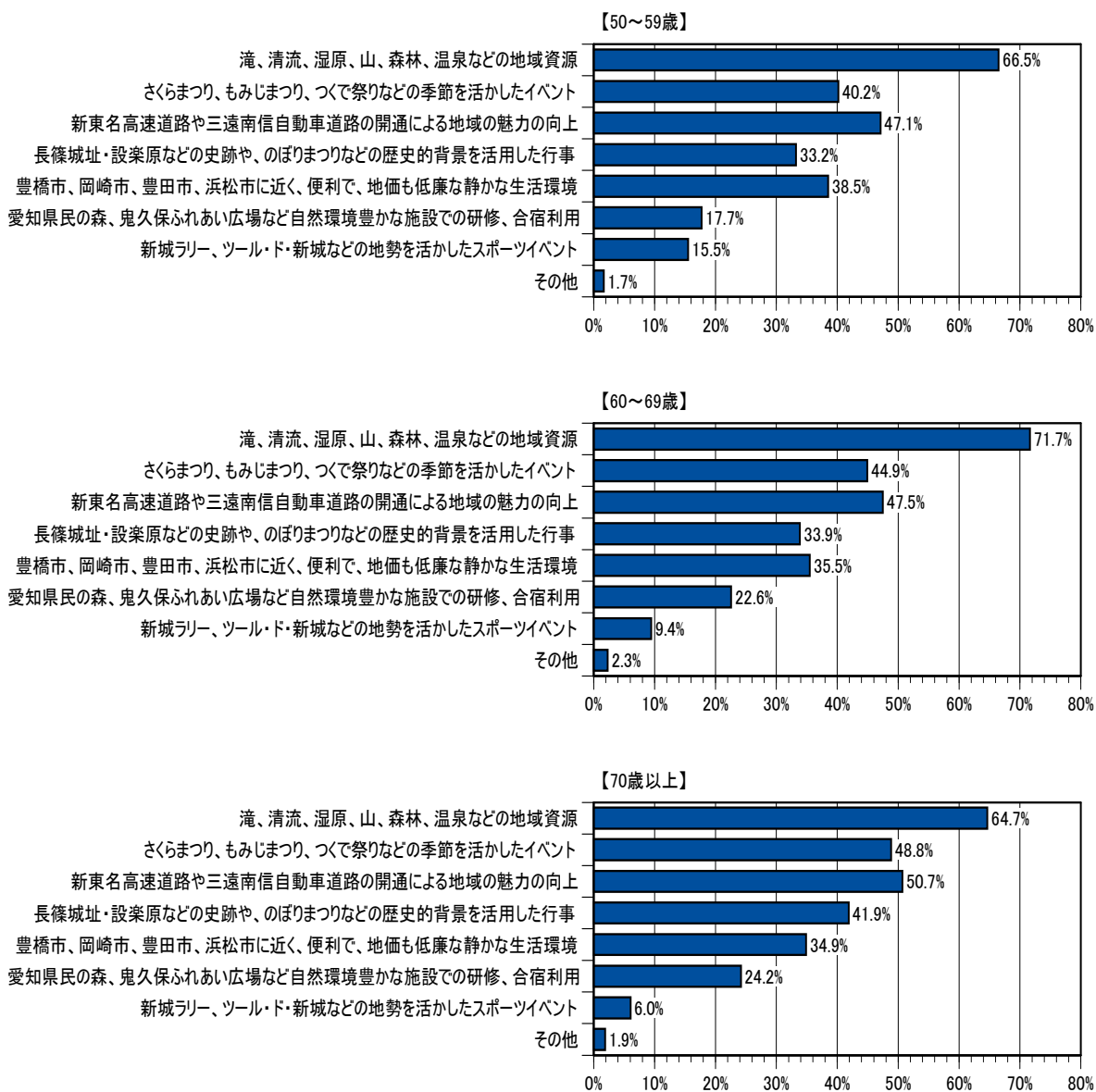


図 54 新城市の魅力・PR ポイント（年代別）

問 18 市職員に対する印象

(あなたの市役所職員に対する印象についてお答えください。)

前回は「あなたが、理想とする市役所の職員像」について聞いており、今回の結果と比較することはできない。

今回市職員に対する印象について聞いたところ、最も評価の高い項目は、「常に住民に対して親切な対応と笑顔で接している」との項目で、「そのとおり」「ややその通り」を合わせた肯定的な評価が 61.0%を占めている。また、「集落やコミュニティ、消防団、青年団、子ども会、PTA等の地域、組織で活躍している」との項目についても、肯定的な評価が 59.6%となっている。しかし、業務の遂行に関する質問や市職員が市民として地域活動へ参加しているかどうかの質問については、否定的な評価が半数以上となっている。特に「専門以外の幅広い知識を持ち、豊かな発想力で物事を判断できている」の項目が 33.4%、「常にコスト意識をもって仕事に臨んでいる」との項目が 37.5%と肯定的な評価が少ない。

こうした点を踏まえて人材育成や業務遂行を行っていく組織づくり、風土づくりが必要であると考えられる。

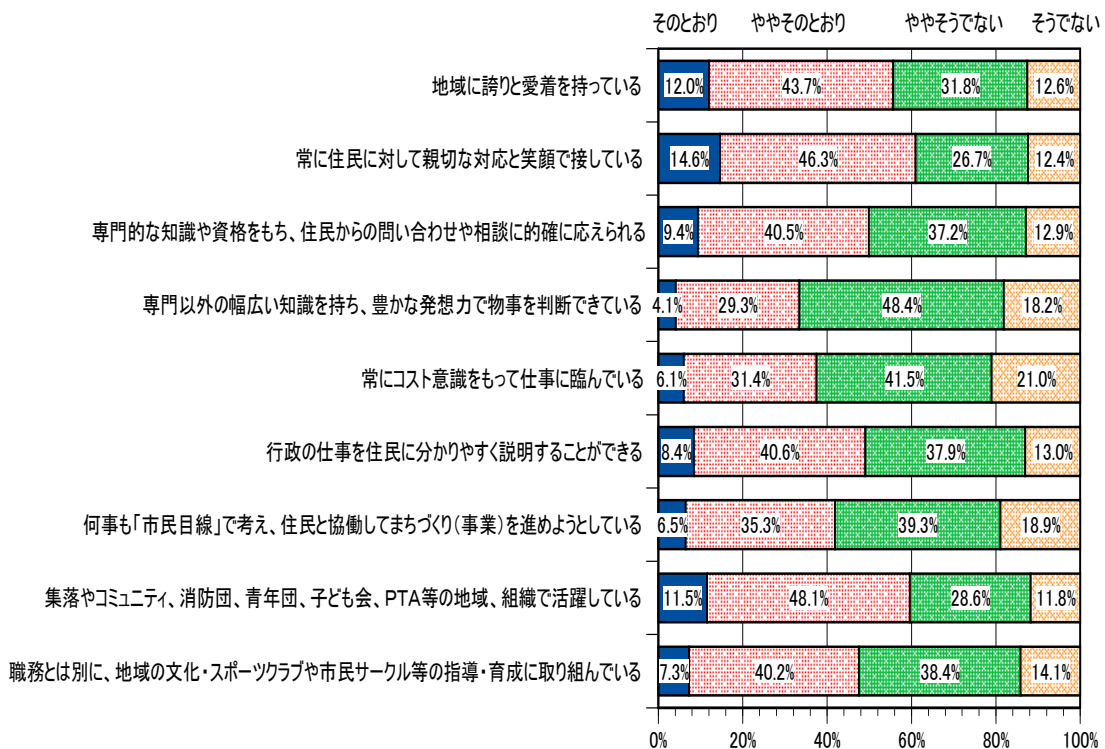


図 55 市役所職員に対する印象